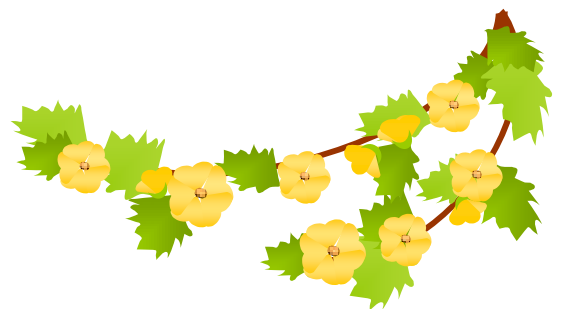




第2章

子どもを取り巻く現状

- 1 . 人口及び児童人口などの推移
- 2 . 児童人口の将来推移
- 3 . 子育て環境の現状
- 4 . 子どもの放課後などの過ごし方
- 5 . 教育環境の現状
- 6 . 子どもと地域社会の関わり
- 7 . 小児医療の現状



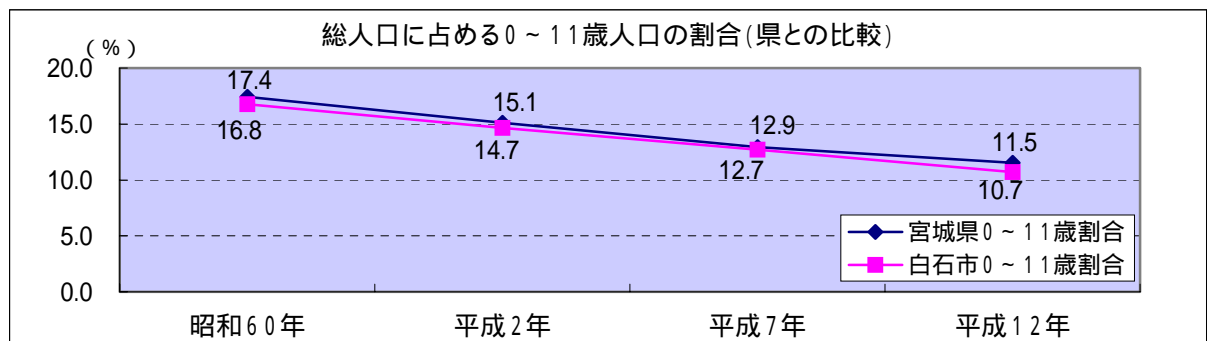
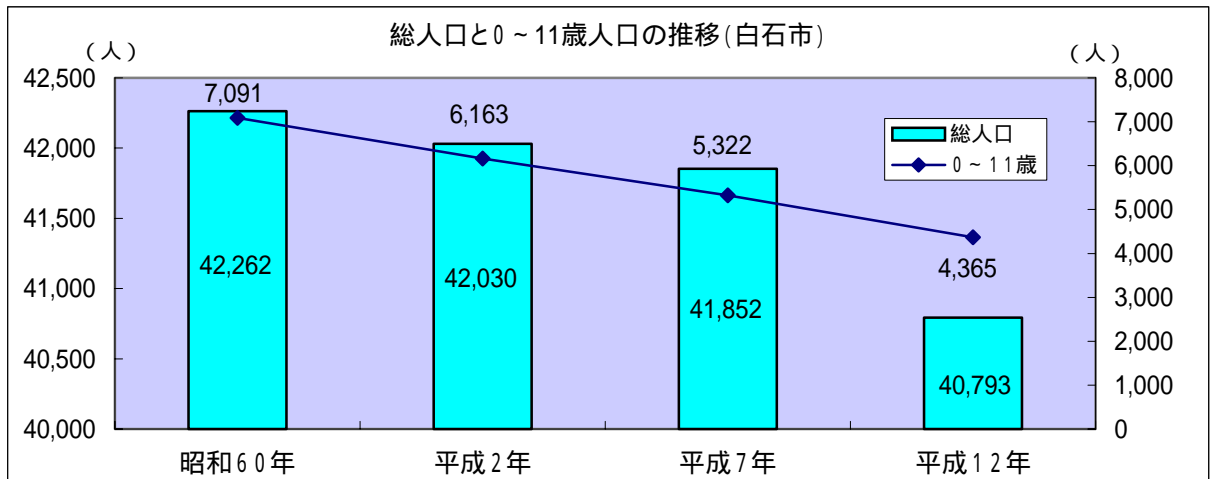
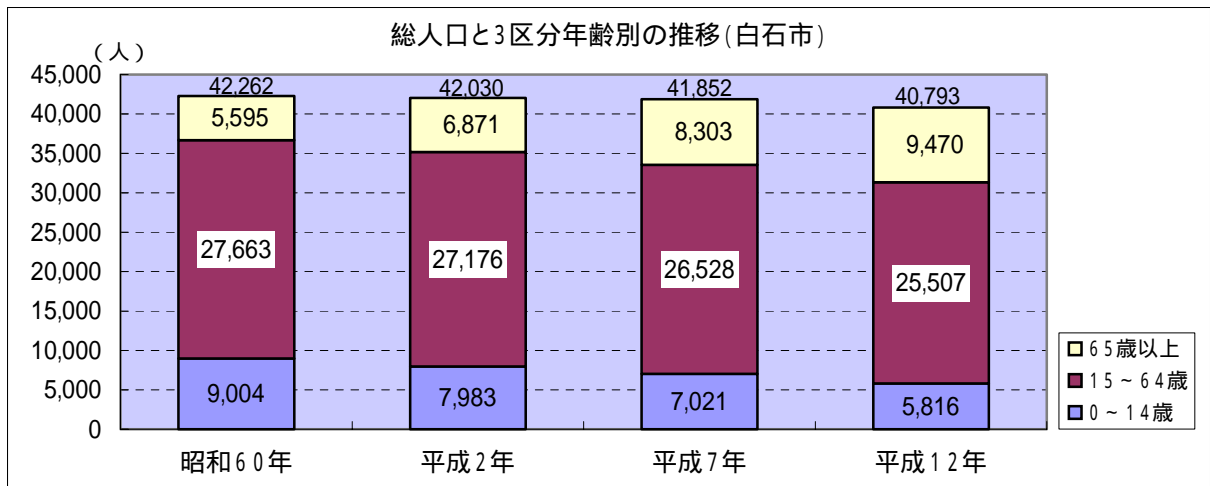
1. 人口及び児童人口などの推移

(1) 人口の推移

白石市の人口の推移をみると、昭和60年の総人口42,262人から以降は緩やかに減少し、平成12年度の総人口は40,793人となっています。

3区分年齢別に見ると、65歳以上が増加している一方、15歳未満は減少しており、少子・高齢化の傾向が表れています。

また0～11歳人口の推移をみると、総人口と同様に0～11歳人口は減少傾向にあります。総人口に占める0～11歳人口の割合を県と比較すると、同じく年々減少の傾向になっています。

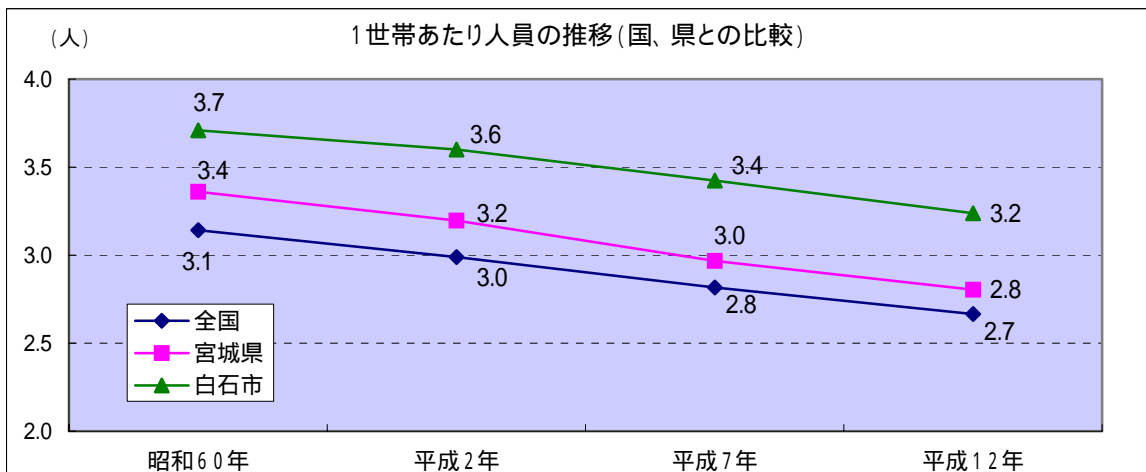
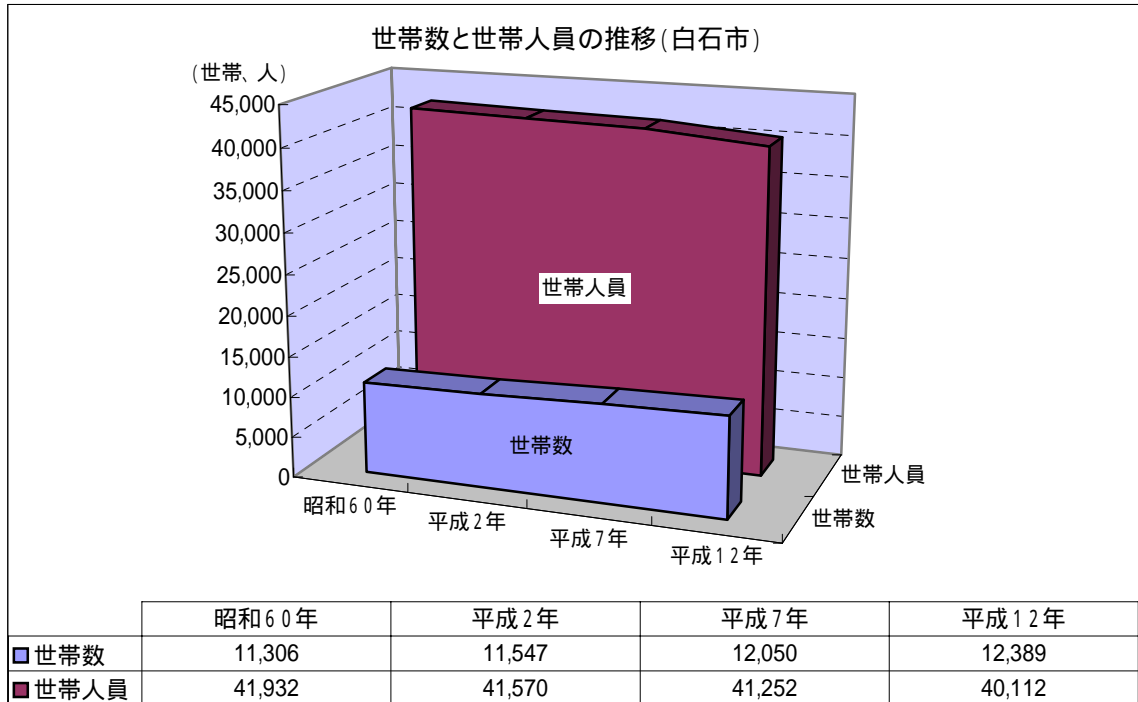


資料：国勢調査

(2) 世帯構成の推移

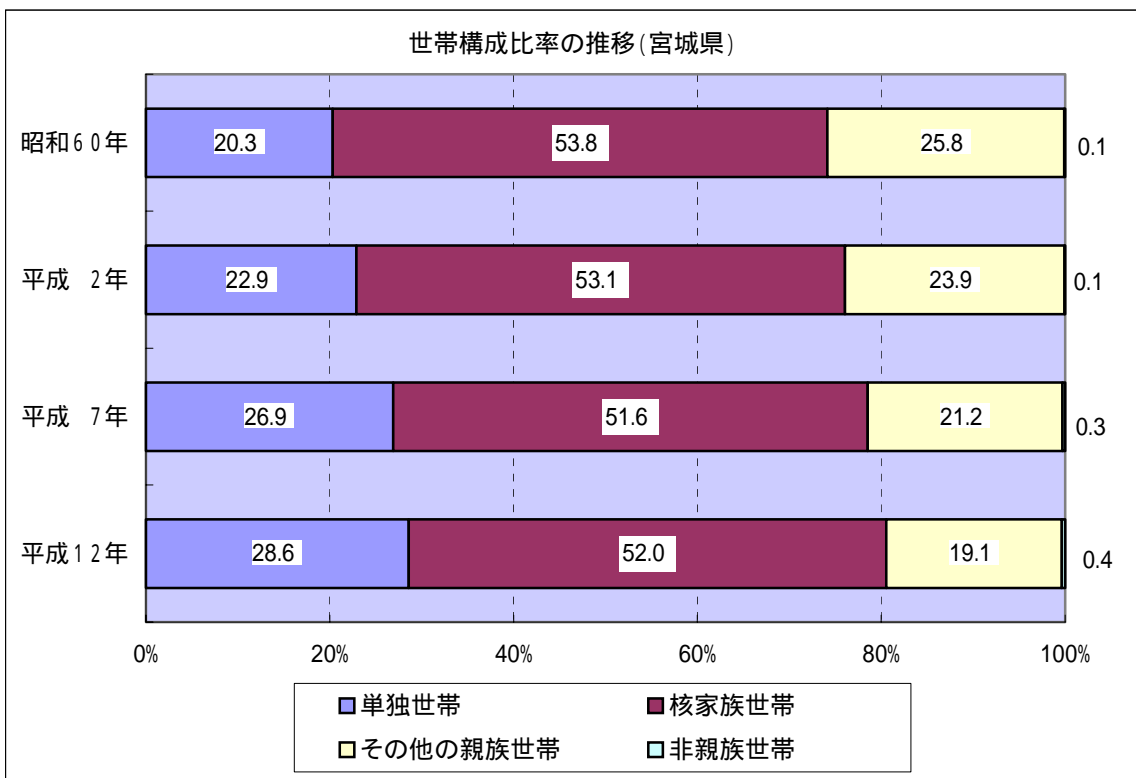
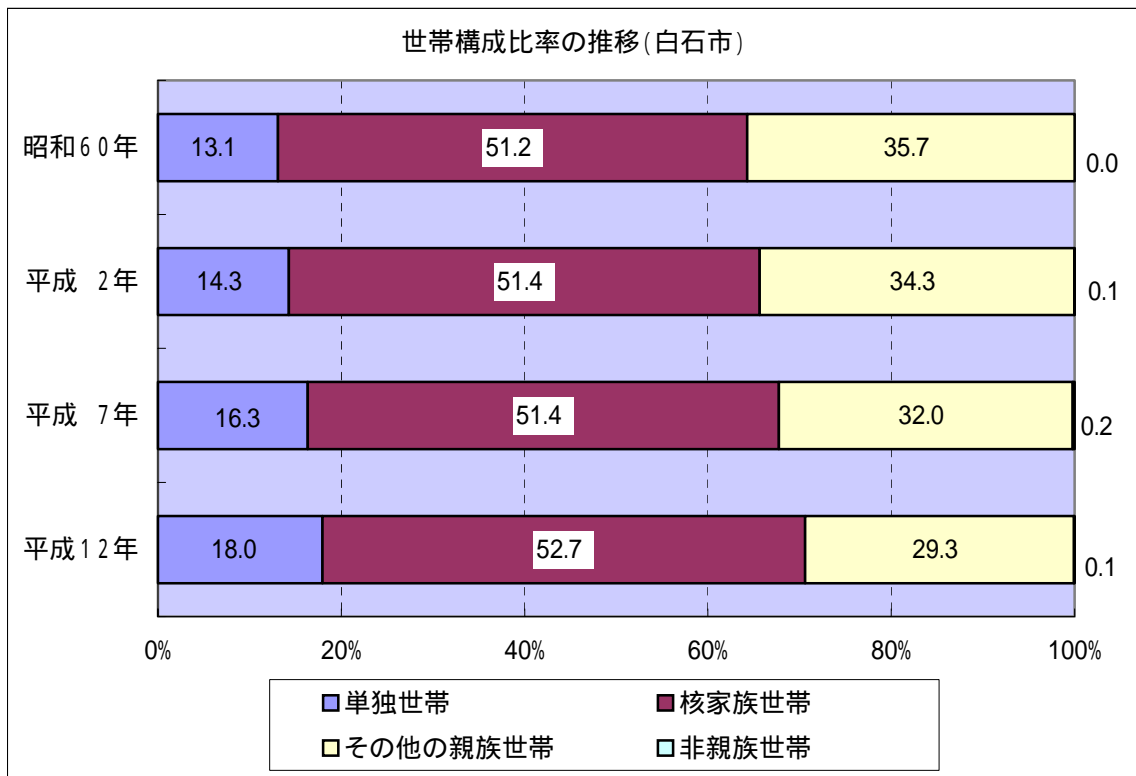
世帯状況は、平成12年現在12,389世帯となっており、昭和60年より世帯数が増加する一方、それを構成する人員は減少しています。

1世帯あたりの平均人員は減少傾向にあります。国や県よりは若干多くなっています。



資料：国勢調査

世帯構成比をみると、核家族世帯はほぼ横ばいで単独世帯が増加しています。これを県と比較すると、本市の方が単独世帯は少なく、その他の親族世帯は多くなっていますが、その他の親族世帯は年々減少しており、県・本市ともに同傾向がみられ、単独・核家族世帯の割合が高くなっています。

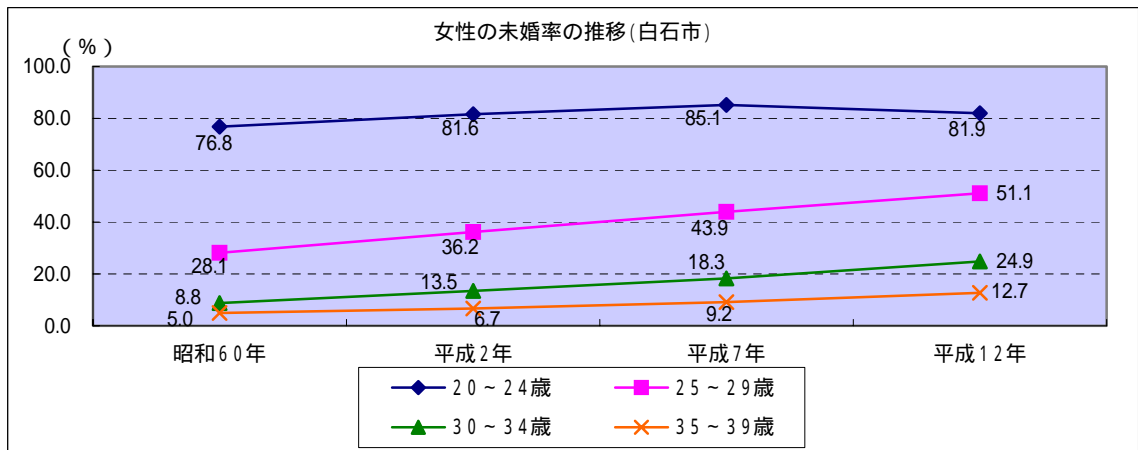
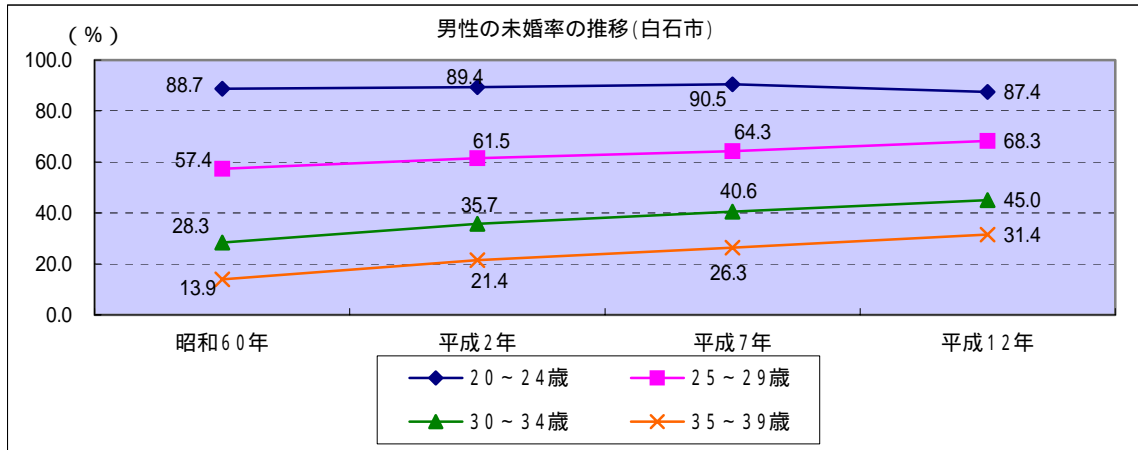


資料：国勢調査

(3) 未婚率の推移

未婚率については、男性の未婚率は25歳以上で上昇傾向となっており、20～24歳ではほぼ横ばいとなっています。

一方、女性については、25～29歳の未婚率は男性の同年代よりも低いものの、上昇傾向にあり、その他、30歳以上では昭和60年では1割未満であったのが、平成12年には1～2割となり、未婚化、晩婚化の傾向がみられます。



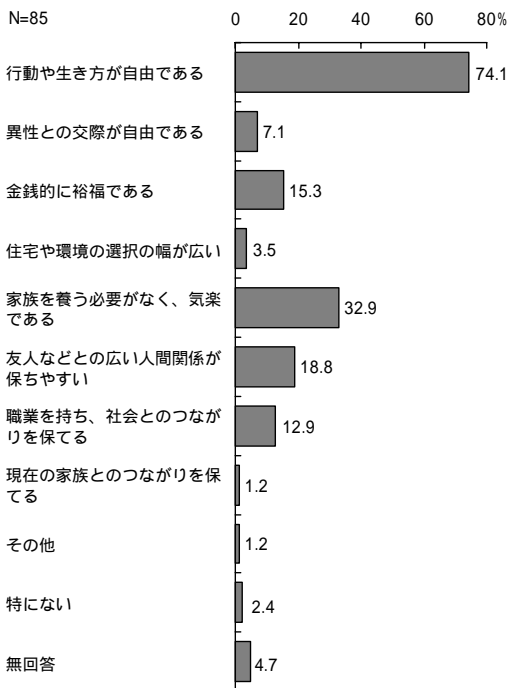
資料：国勢調査

(4) 結婚についての意識

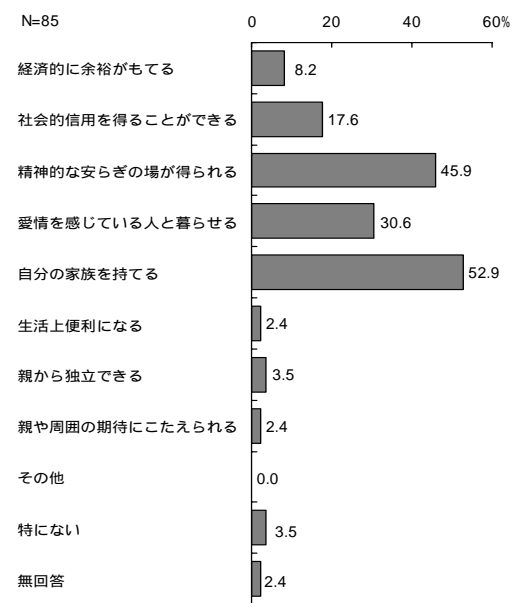
一般市民の結婚についての意識に目を向けると、未婚・既婚を問わず、独身生活の利点については「行動や生き方が自由である」が74.1%と最も多くなっています。その他、「家族を養う必要がなく、気楽である」(32.9%)、「友人などとの広い人間関係が保ちやすい」(18.8%)などが続いています。

また、未婚・既婚を問わず、結婚の利点については「自分の家族を持てる」が52.9%と最も多く、次に「精神的な安らぎの場が得られる」(45.9%)などが続いています。

独身の利点【一般】



結婚の利点【一般】

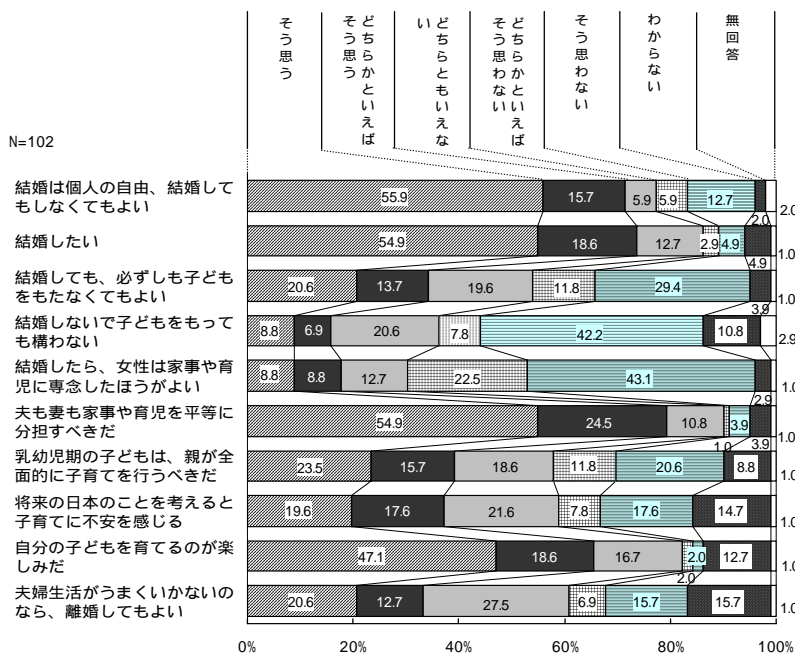


資料：平成 16 年ニーズ調査より

中高生の結婚やその後の生活についての意識で、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」をあわせた『そう思う』が多かったのは、「夫も妻も家事や育児を平等に分担すべきだ」、「結婚したい」、「結婚は個人の自由なので、しなくてもよい」などで、7割～8割近くを占めています。

一方、「どちらかといえばそう思わない」、「そうは思わない」をあわせた『そう思わない』が多かった項目は、「結婚したら、女性は家事や育児に専念したほうがよい」、「結婚しないで、子どもをもっても構わない」などで、5割～6割以上となっています。

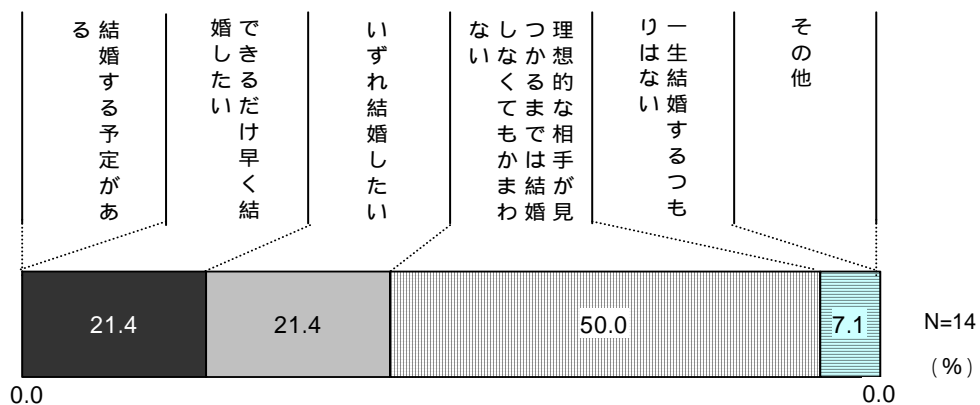
結婚や結婚後の生活についての意識【中学生・高校生】



資料：平成 16 年ニーズ調査より

一方、一般市民の独身者の結婚に対する意識は「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」が50.0%と半数を占め、「一生結婚するつもりはない」(7.1%)とあわせると、結婚に消極的な傾向がみられます。

結婚に対する意識【一般】



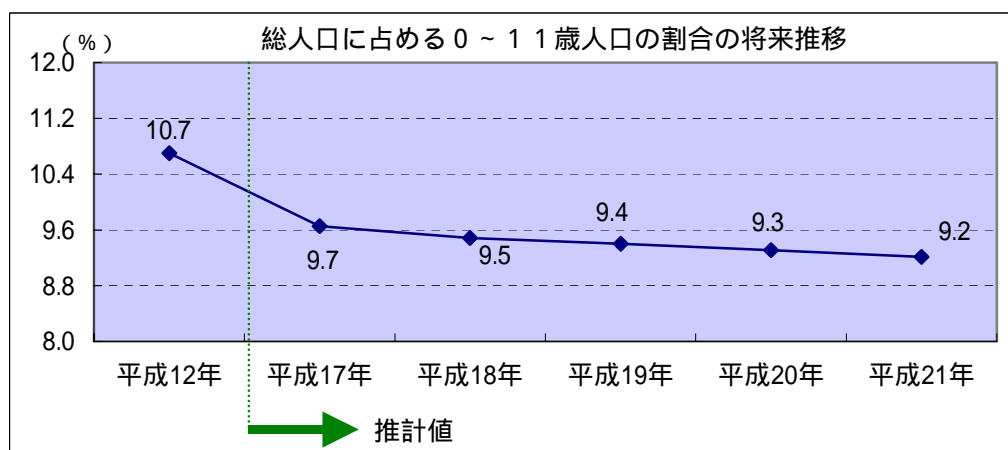
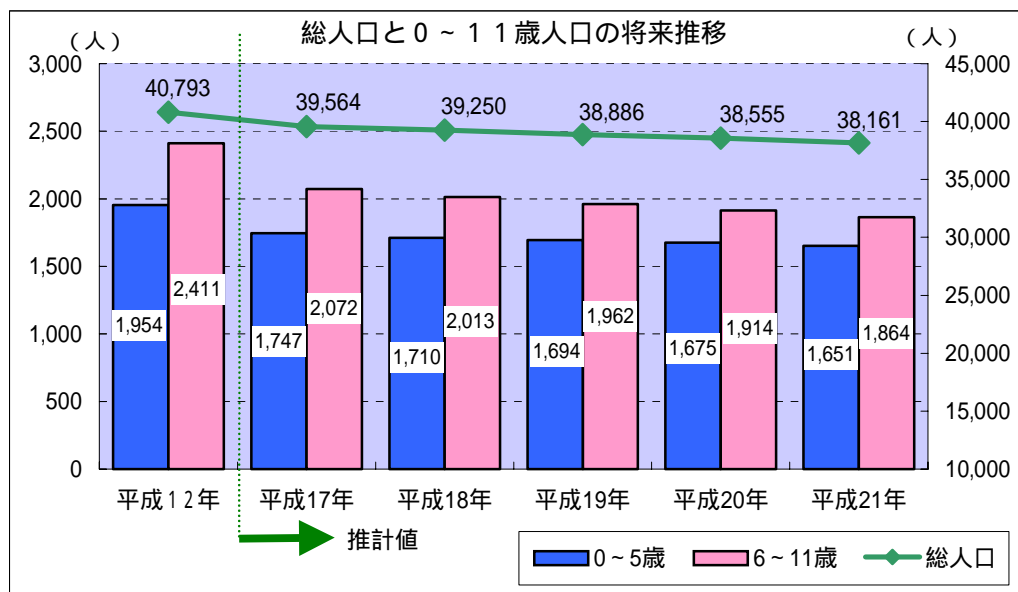
資料：平成 16 年ニーズ調査より

2. 児童人口の将来推移

(1) 児童人口の将来推移

平成12年までの人口推移は、総人口、児童人口ともに減少していますが、平成17年以降の将来推移も同様に、総人口及び児童人口は緩やかに減少し、平成21年には総人口3万8千人、児童人口は3千5百人になると考えられます。

将来推移における総人口に占める児童人口の比率をみても、平成12年度の10.7%を境に、1割未満となると考えられ、少子化傾向がみられます。



資料：国勢調査（昭和60年～平成12年）のデータを使用し、コーホート変化率法により推計

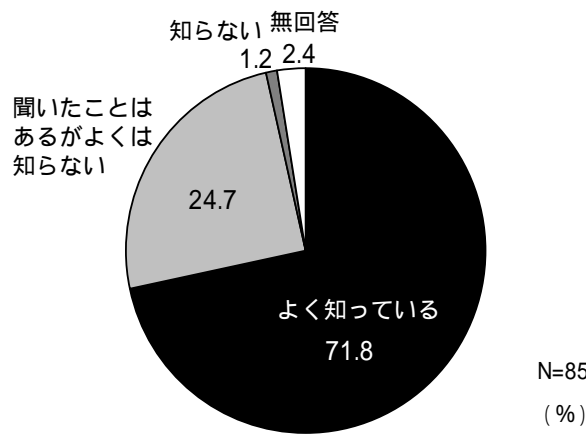
(2) 市民の意識

少子化についての意識

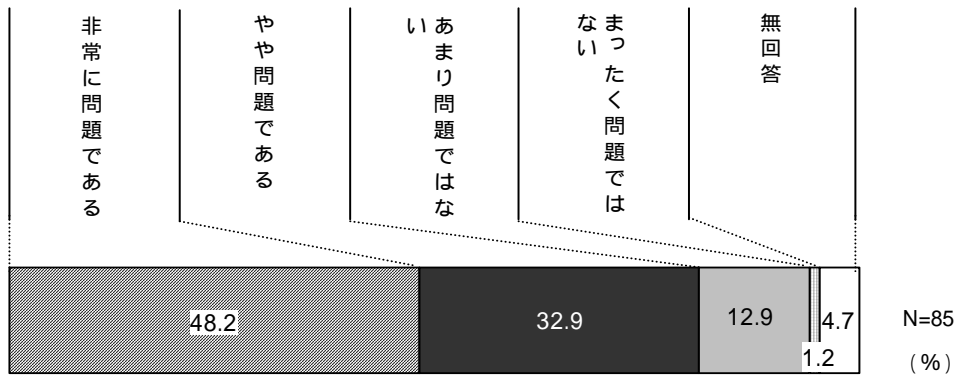
出生率が低下していることについて、「よく知っている」との回答が71.8%を占めています。またその問題意識については、「非常に問題である」(48.2%)、「やや問題である」(32.9%)をあわせると、問題視している人が約8割を占めています。

出生率が低下している原因と感ずるのは「子どもの生活費や教育費がかかりすぎるから」が71.8%と最も多く、次に「家庭と仕事の両立が困難だから」が48.2%となっています。

出生率が低下していることについての認識【一般】

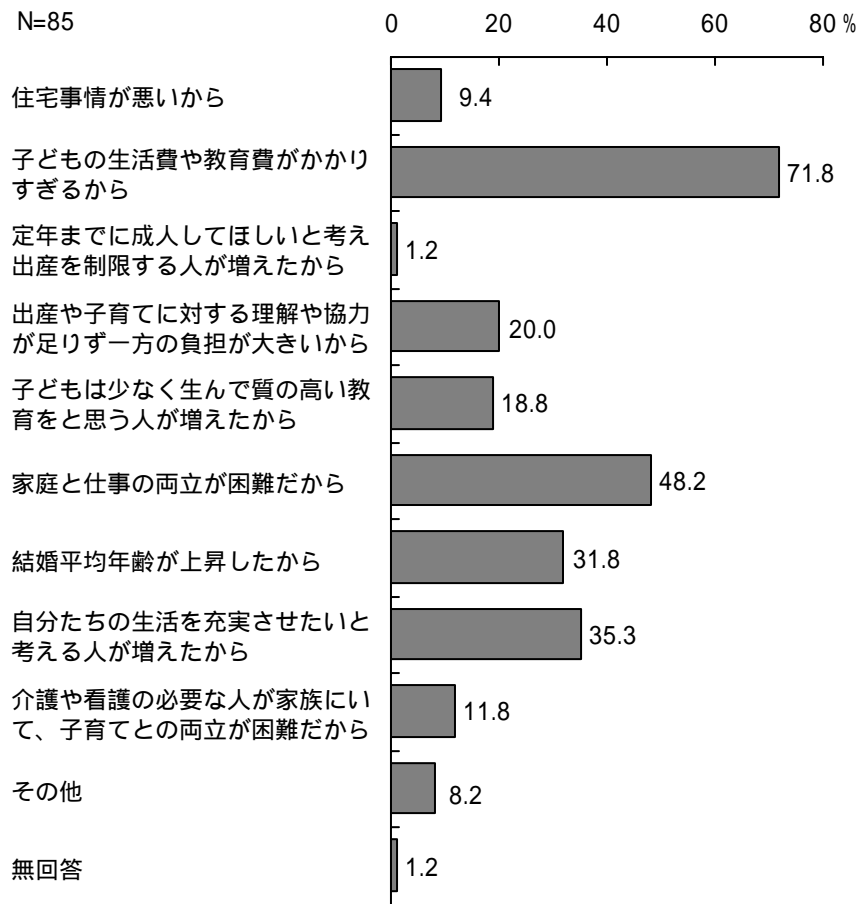


出生率が低下していることについての問題意識【一般】



資料：平成 16 年ニーズ調査より

出生率低下の原因【一般】



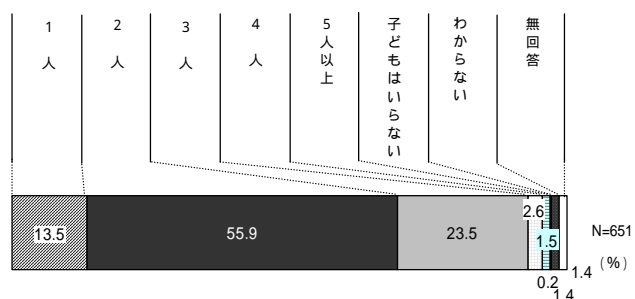
資料：平成 16 年ニーズ調査より

理想とする子どもの数と実際の子どもの数

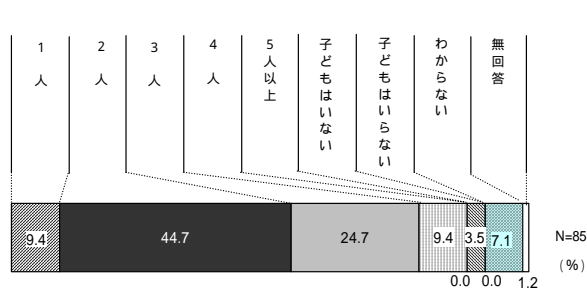
理想では「子ども3人」と回答する人が50%近くにのぼりますが、実際には「子ども2人」の人が50%前後で最も多くなっています。その主な理由として「お金がかかる(かかった)から」、「肉体的負担が大きい(大きかった)から」、「仕事と子育ての両立が困難だ(困難だった)から」などが挙げられています。子どもを生み育てることについて、どのような意味を持っているかは「子どもを育てることにより自分自身が成長する」が40.0%と最も多く、次いで「次の社会を担う世代をつくる」が37.6%となっています。

実際の子どもの数

【就学前】

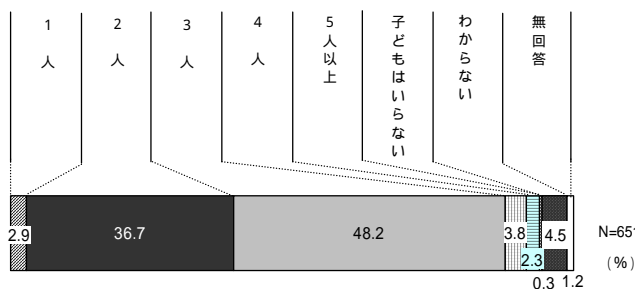


【一般】

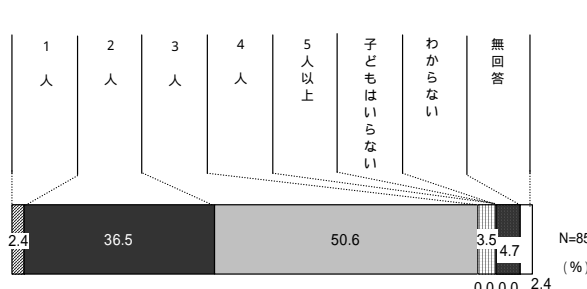


理想とする子どもの数

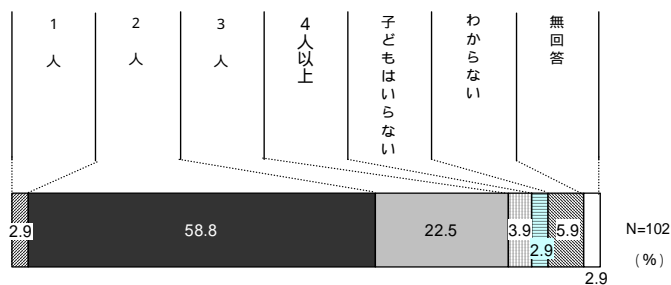
【就学前】



【一般】

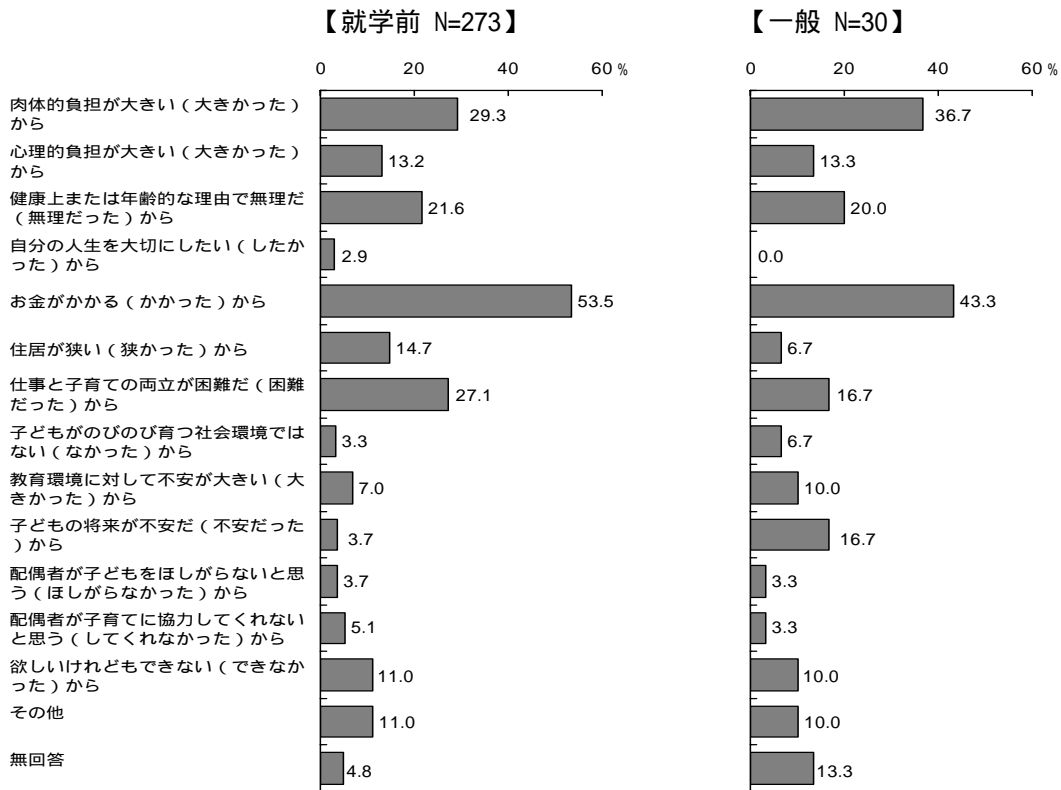


【中学生・高校生】

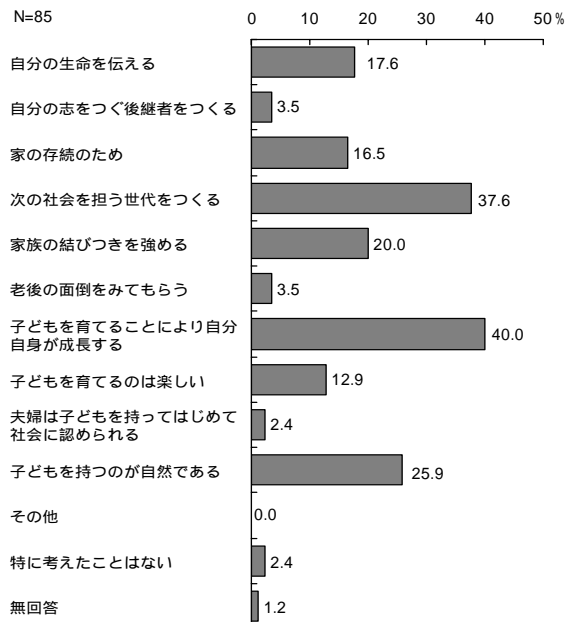


資料：平成 16 年ニーズ調査より

理想と実際の子どもの数が異なる理由



子どもを生み育てることの意味【一般】

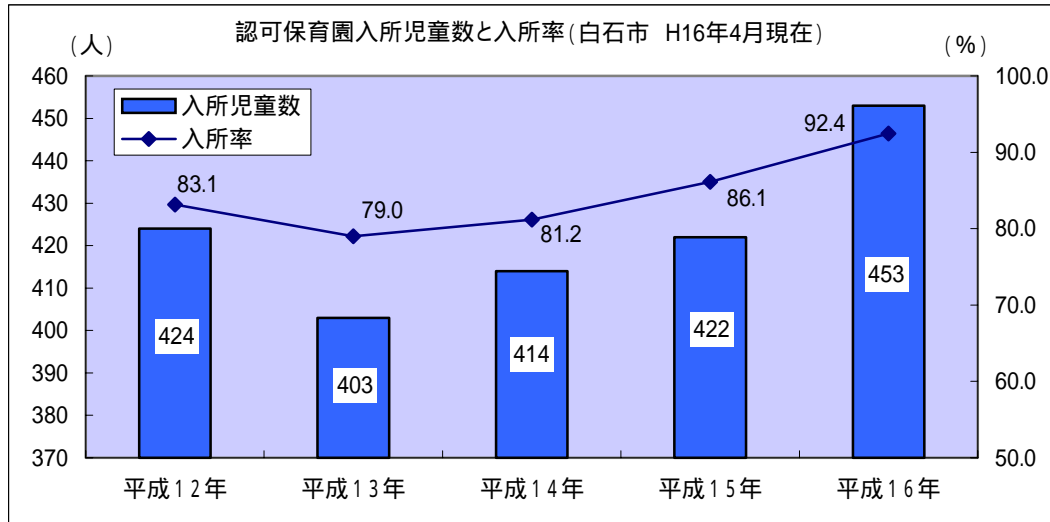


資料：平成 16 年ニーズ調査より

3. 子育て環境の現状

(1) 認可保育園の現状

現在、白石市には8ヶ所の認可保育園（休園1箇所は除く）があり、1ヶ所あたり平均60名程度の定員となっています。平成12年度までの児童人口は減少していますが、認可保育園への入所児童数は年々増加し、平成16年には453名と、保育サービスへのニーズが強まっていることがわかります。



平成14年まで9施設での入所率、平成15年以降からは8施設（1施設休園）で入所率を算出

資料：生活環境課

(2) その他の保育サービスの現状

地域子育て支援センター事業

本市では、現在、認可保育園のうち1箇所（南保育園と同一地）に設置しており、核家族化の進行や出生率の低下に対応して、地域全体で子育てを支援する基盤の形成を図るため、子育て家庭などに対する育児不安などについての相談指導、子育てサークルなどへの支援及び家庭的保育を行う者への支援などを実施することにより、地域の子育て家庭に対する育児支援を行っています。

ファミリーサポートセンター事業

本市では1箇所、市が設置しているセンターがあります。会員数は、平成15年度には365人と、平成14年度から約100人増えており、年々増加していくと考えられます。また、援助活動実績値も平成15年度には前年の2倍となっており、市民の相互援助による保育サービスに対するニーズが高まっていることがわかります。

年 度	利用会員	協力会員	両方会員	合 計	援助活動実績値
平成14年度	154人	67人	37人	258人	515人
平成15年度	227人	87人	51人	365人	1,029人

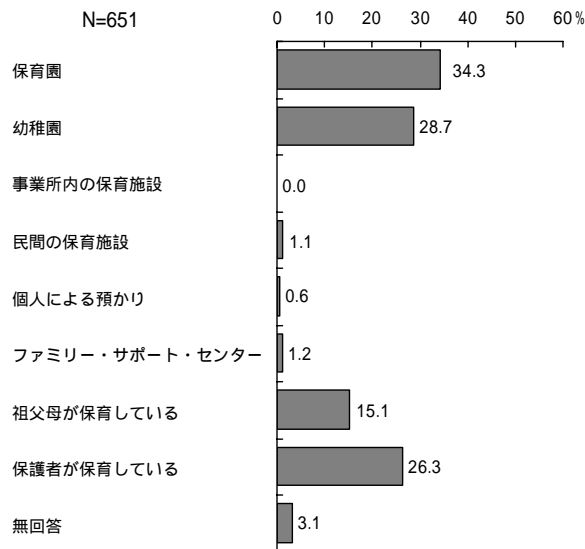
資料：生活環境課

(3) 保育サービスの利用状況と希望

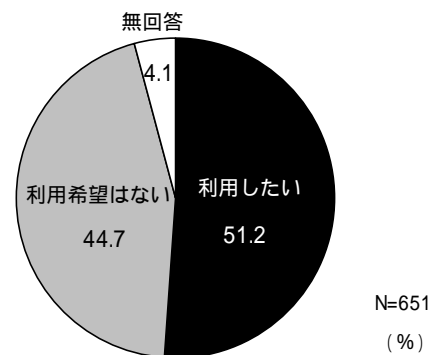
現在、平日において保育サービスなどの利用を見ると、「保育園」が34.3%で最も多くなっており、「保育園」、「幼稚園」、「事業所内の保育施設」、「民間の保育施設」などの、何らかの保育サービス施設を利用している児童は、全体の6割以上となっています。今後平日において保育サービスなどの利用を希望するかについては、「利用したい」が51.2%、「利用希望はない」が44.7%となっています。希望するサービスを見ると、「認可の保育園」が60.1%で最も多く、次いで「幼稚園」(24.3%)、「事業所内保育施設」(6.6%)となっています。

子育てに関するサービスの認知度で最も高かったのは「乳幼児相談(健康推進課)」の77.3%、利用状況でも「乳幼児相談(健康推進課)」が31.3%、利用意向では「プレールーム(やんちゃっこ)」の充実希望が28.6%となっています。全体的にも「充実すべき」との回答が2割前後～3割近くとなっており、更なるサービス内容の充実が望まれています。

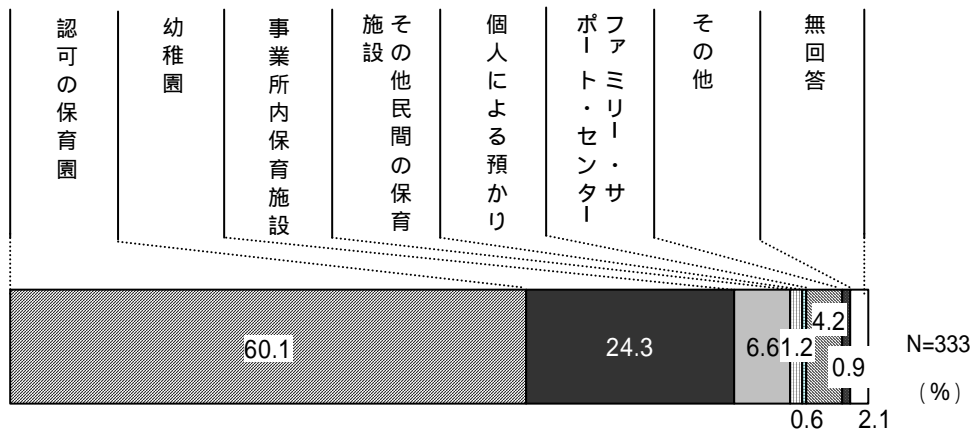
保育サービスなどの利用の有無【就学前】



保育サービスなどの利用希望の有無【就学前】

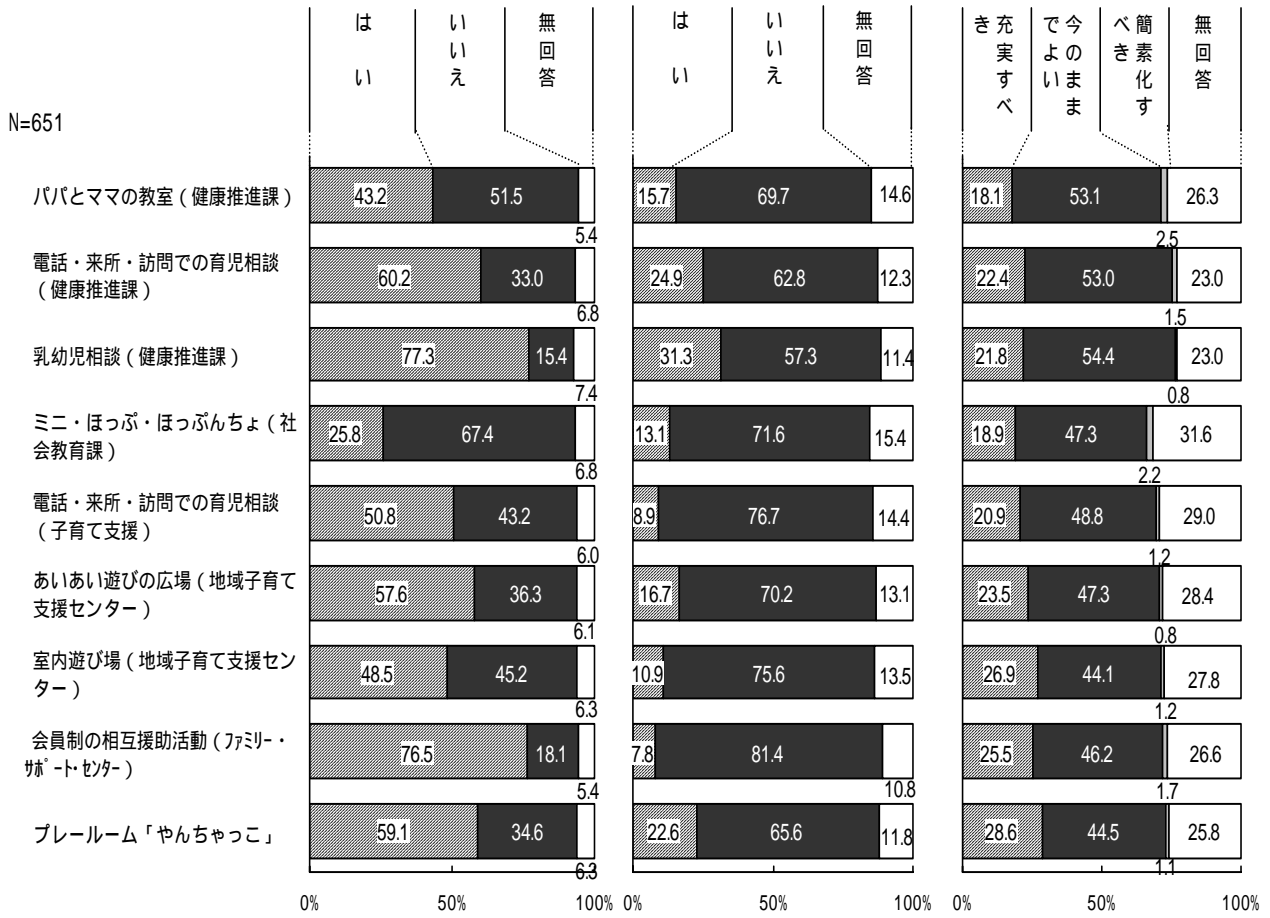


希望する保育サービス【就学前】



資料：平成16年ニーズ調査より

子育てに関するサービスの認知度・利用状況・利用意向【就学前】



資料：平成 16 年ニーズ調査より

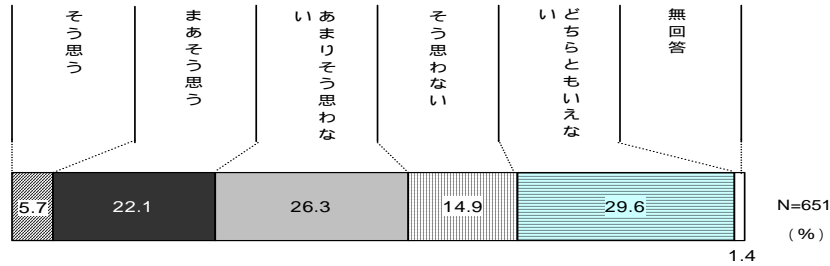
(4) 白石市の子育て環境

白石市の子育て環境について、子育てしやすいかどうかについては、就学前児童、小学生児童の保護者ともに全体の25%前後が「思う」と答えています。

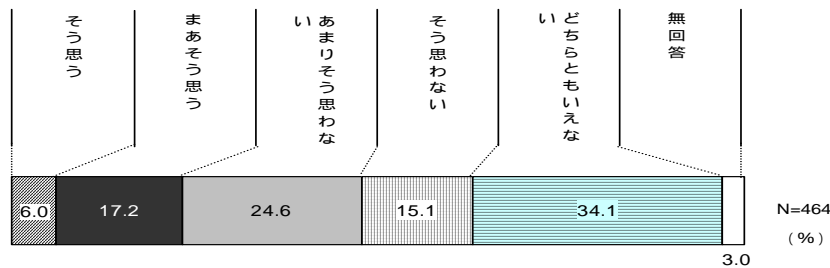
また、子どもを取り巻く環境への問題点については、「子どもをしつける大人が少ないと思う」や「子どもが高齢者などと接する機会が少ないと思う」などの地域社会での関わりについてや、「子どもを狙った犯罪が多いと思う」に関心が集まっています。

子育て環境について、子育てしやすいか

【就学前】

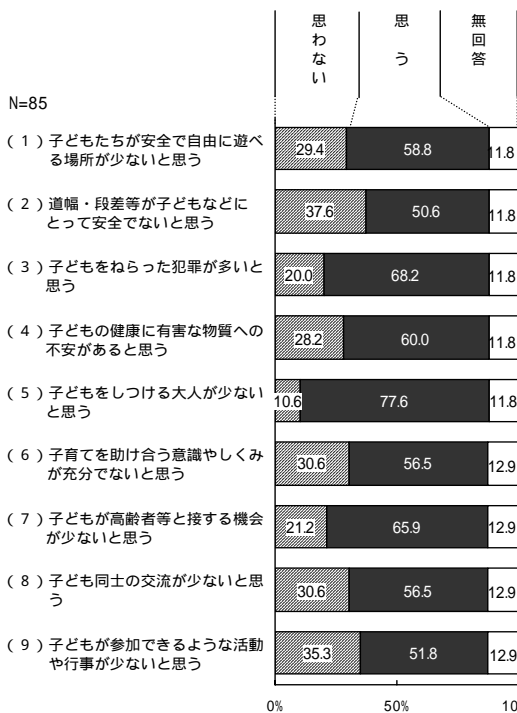


【小学生】

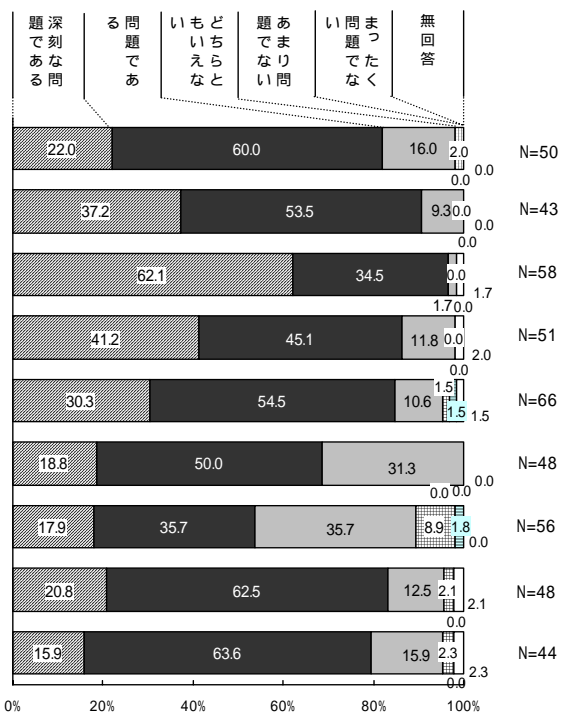


子どもを取り巻く環境の問題点【一般】

【状況の有無】



【問題意識】



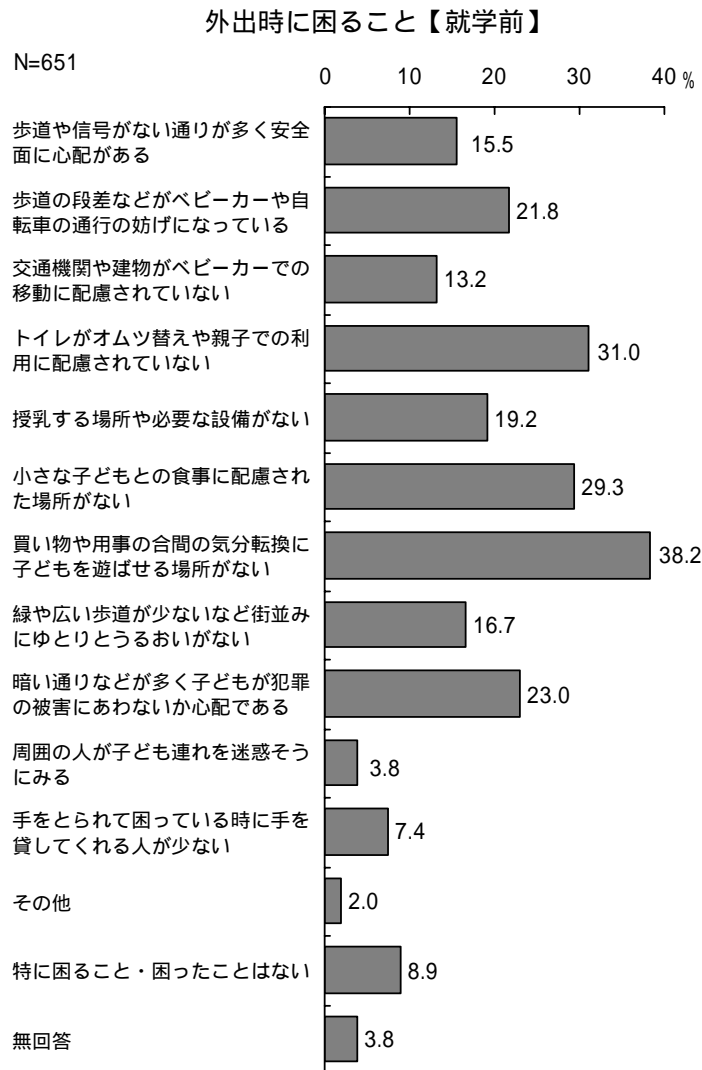
資料：平成 16 年ニーズ調査より

(5) 子どもの安全

子どもを連れて外出する場合に困ることについては、「買い物や用事の合間の気分転換に子どもを遊ばせる場所がない」などの不便さへの不満以外にも、「暗い通りなどが多く子どもが犯罪の被害にあわないか心配である」や「歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げとなっている」などの治安や安全面への不安も目立っています。

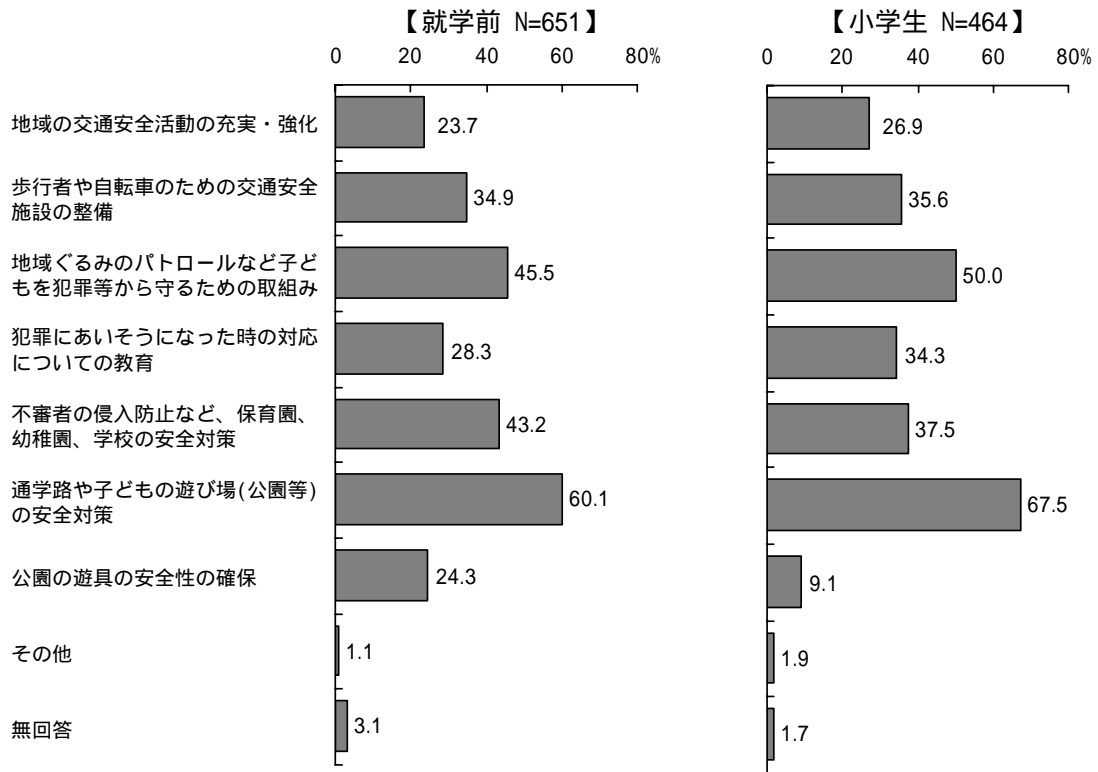
事実、子どもの安全、保護のために重要と考える事項をたずねたところ、就学前、小学生児童ともに「通学路や子どもの遊び場（公園等）の安全対策」が6割～7割近くと最も多くの回答を得ており、以下「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪などから守るための取り組み」、「不審者の侵入防止など、保育園、幼稚園、学校の安全対策」、などに多くの回答が集まっており、関心の高さがうかがえます。

子育てサークルなどへの参加と行政に行ってほしい支援については、参加意向のある人は4割以上にのぼり、「活動中の託児サービス」や「情報発信やPRなどに関する支援」などの行政支援を望む声が多くなっています。

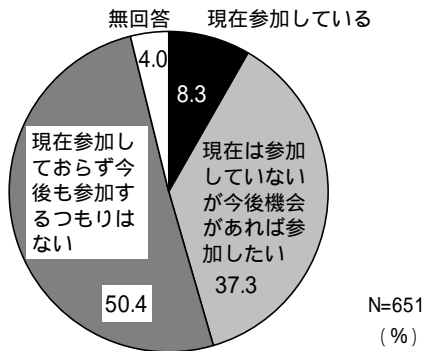


資料：平成 16 年ニーズ調査より

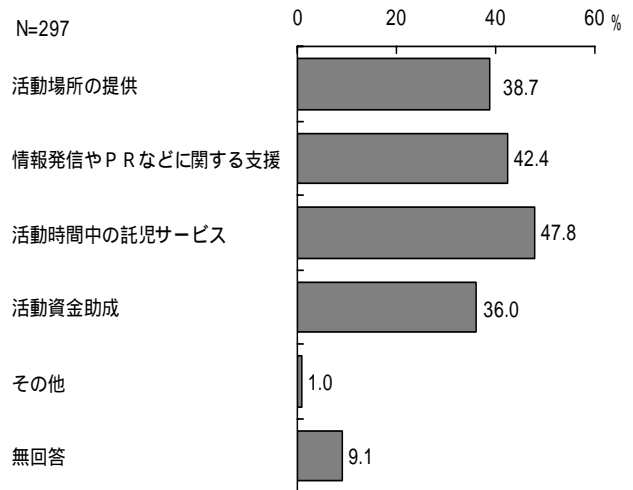
子どもの安全



子育てサークルなどへの参加意向【就学前】



行政に行ってほしい支援【就学前】



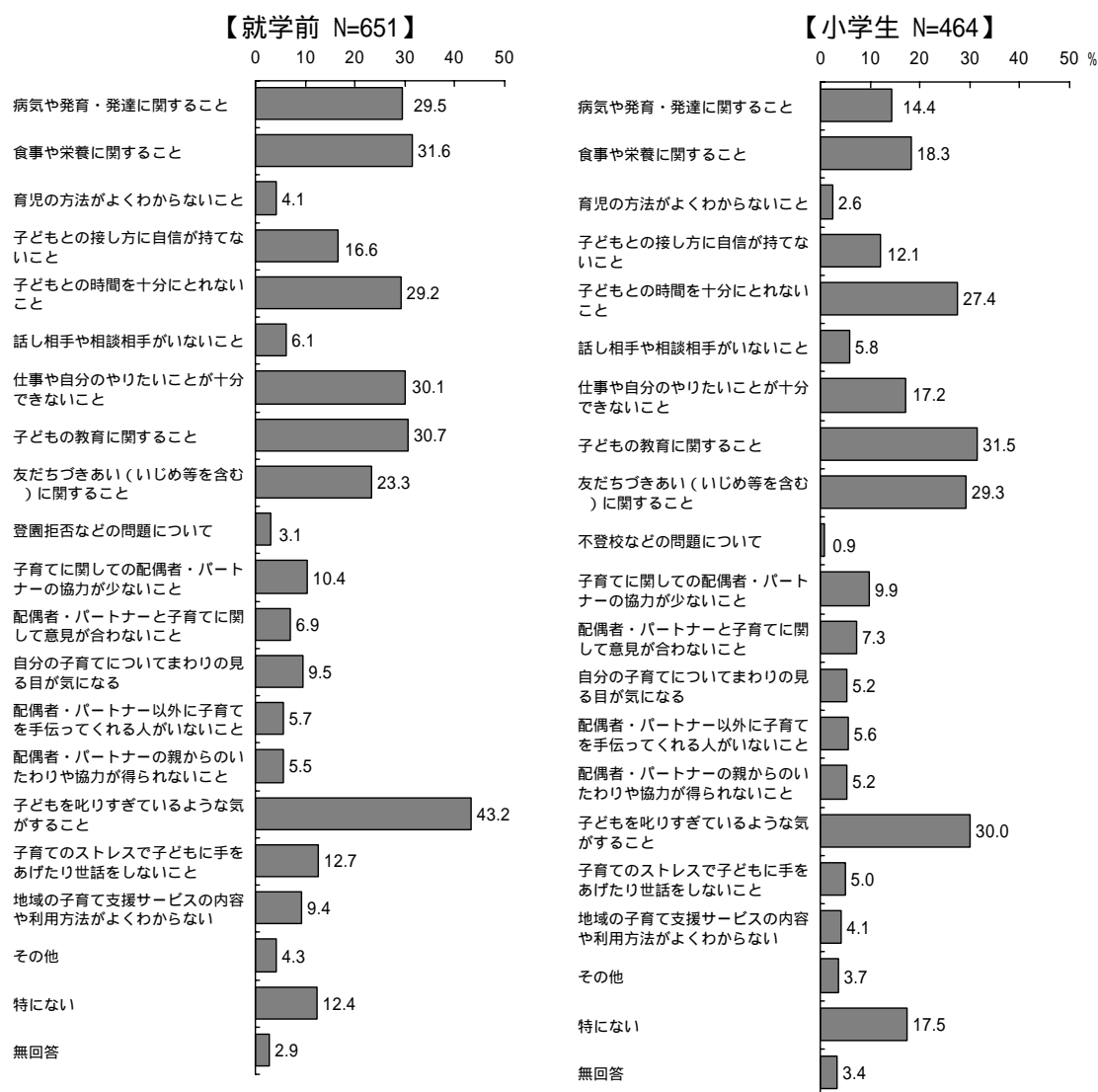
資料：平成 16 年ニーズ調査より

(6) 子育てに関する悩み

子育てに関して日常悩んでいること

子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることを見ると、共通して多いのは「子どもの教育に関すること」や「子どもを叱りすぎているような気がする」との回答となっています。就学前児童に関しては「病気や発育・発達に関すること」、「食事や栄養に関すること」、「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」、「子どもを叱りすぎているような気がする」となどの項目は小学生児童の保護者よりも多くみられます。

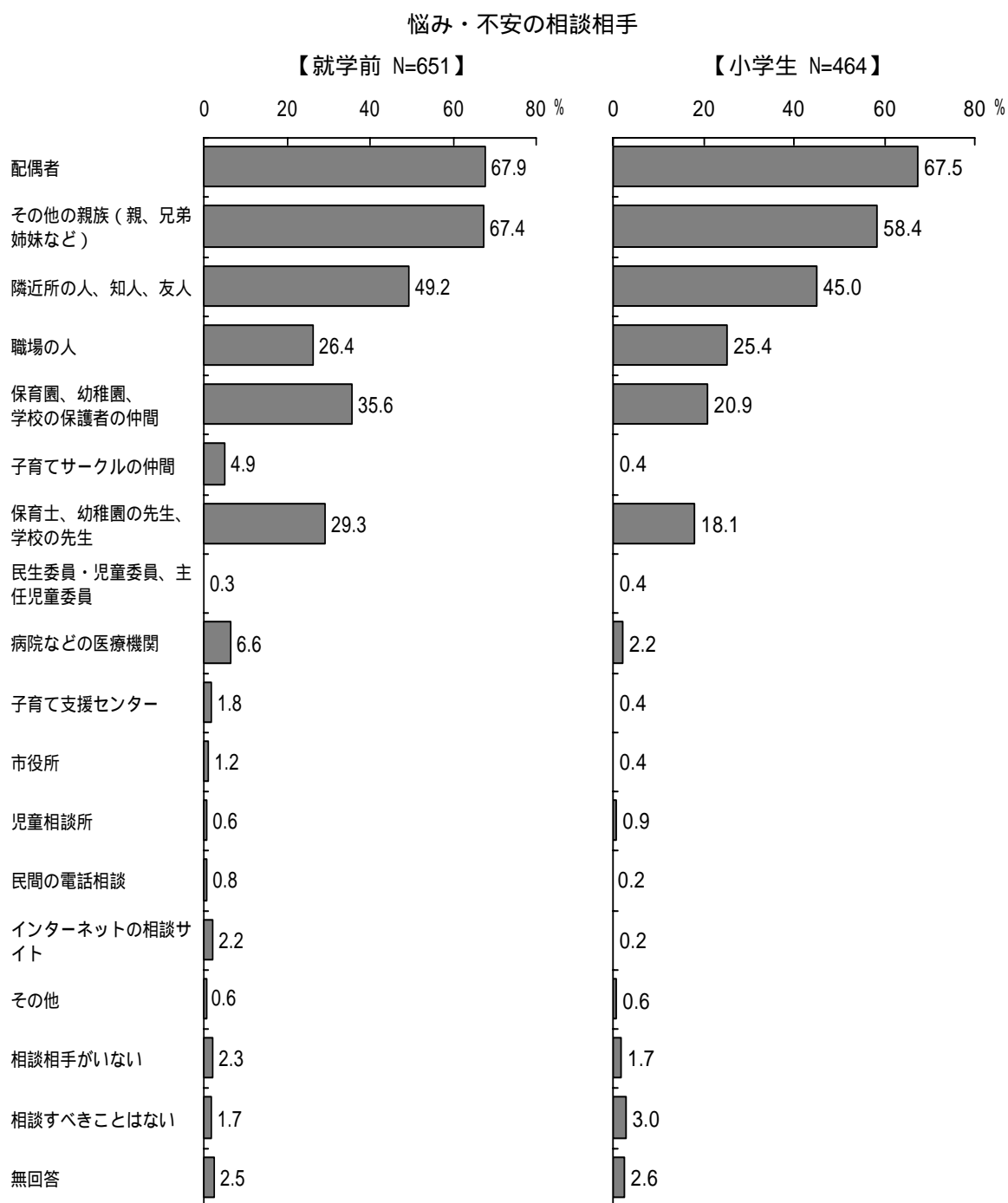
子育てに関する日頃の悩み



資料：平成 16 年ニーズ調査より

悩みの相談相手

悩み・不安の相談相手については、共通して「配偶者」、「その他の親族（親、兄弟姉妹など）」がいずれも半数以上となっています。

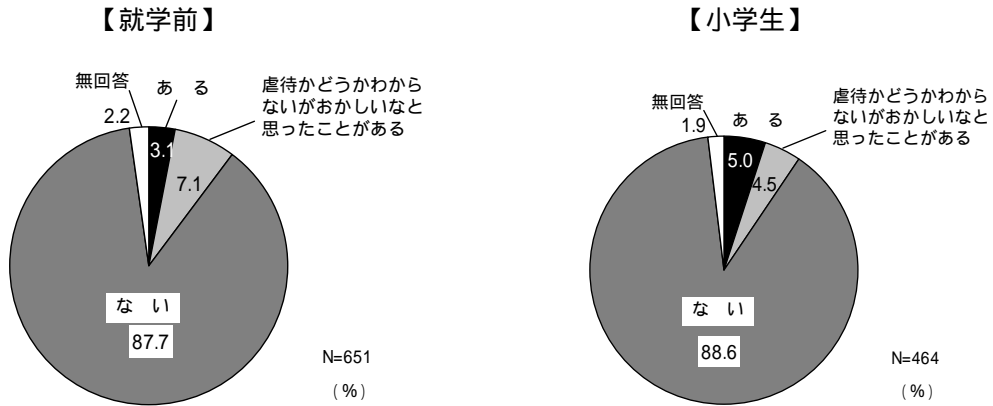


資料：平成 16 年ニーズ調査より

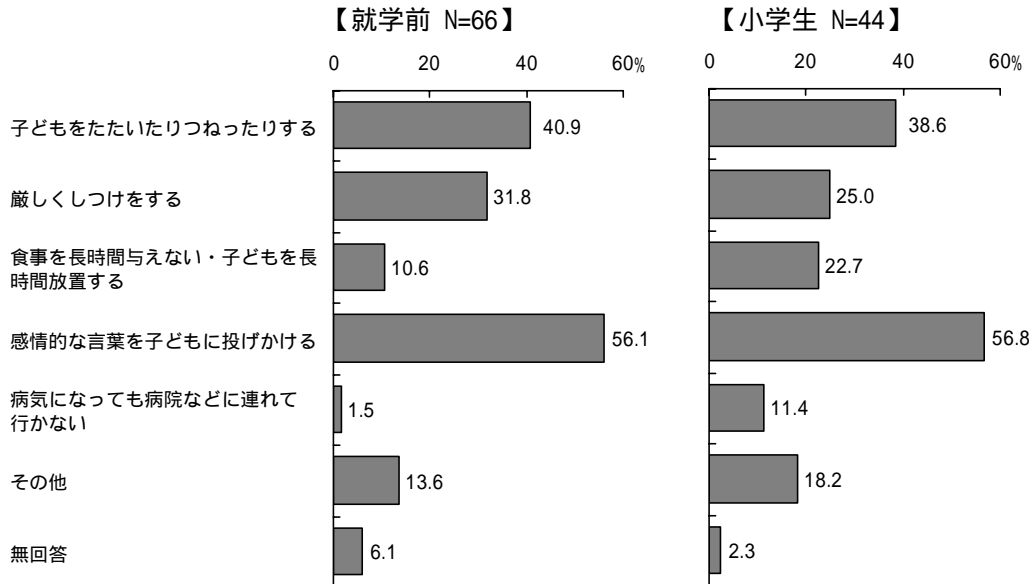
(7) 虐待の有無

虐待を見聞きしたことがあるかたずねたところ、9割近くが「ない」と回答していますが、「ある」、もしくは「虐待かどうかかわからないがおかしいなと思ったことがある」と回答した1割の人に、その時の対応についてたずねたところ、5~6割が「特に何もしていない」と回答しており、何らかの対応をとったのは4割前後にとどまっています。

虐待を見聞きしたこと

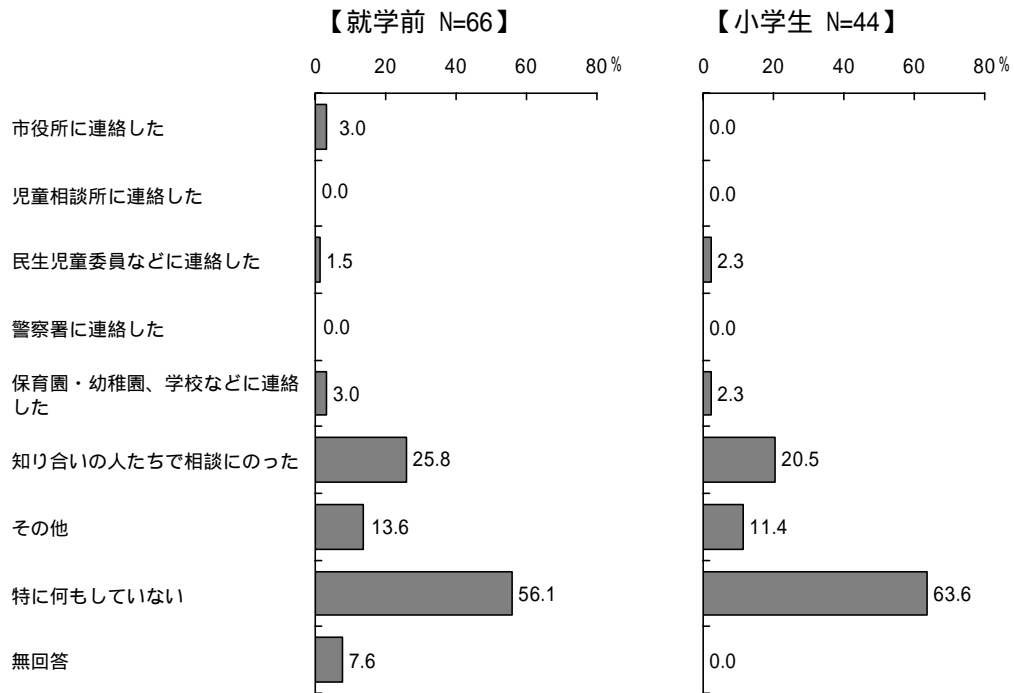


その時の状況



資料：平成 16 年ニーズ調査より

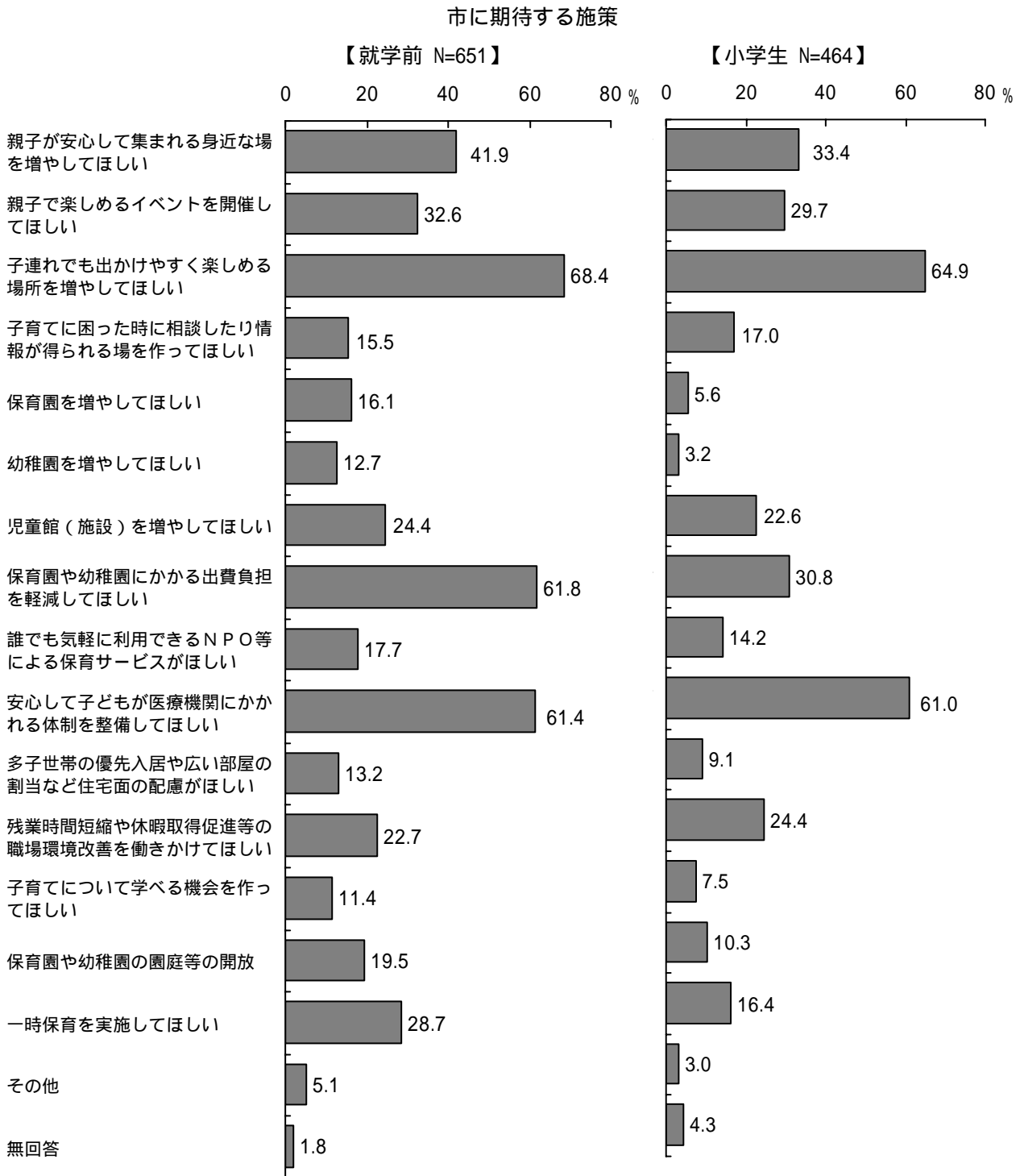
その時の対応



資料：平成 16 年ニーズ調査より

(8) 市に期待する施策

今後、市に充実を期待する施策としては、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」などの、子育て家庭に配慮したまちづくりに関心が集まっており、また就学前児童においては「保育園や幼稚園にかかる出費負担を軽減してほしい」との回答も多く、子育ての経済的環境整備への関心が高くなっています。

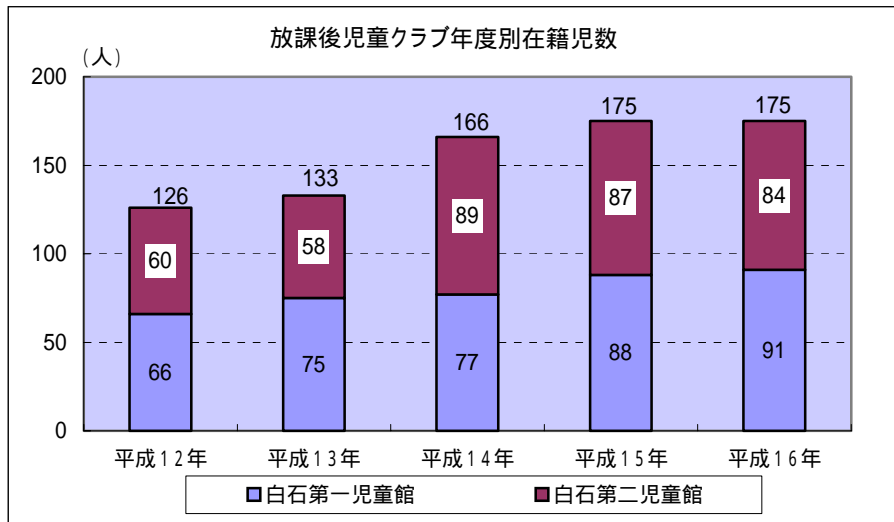


資料：平成 16 年ニーズ調査より

4. 子どもの放課後などの過ごし方

(1) 放課後児童クラブの現状

現在、白石市には2ヶ所の放課後児童クラブがあります。平成12年には2施設合わせて126名の児童が利用していましたが、入所児童数は年々増加し、平成16年には175名と、放課後児童クラブへのニーズが高まっていることがわかります。



資料：生活環境課

(2) 子どもの日常

放課後などの主な過ごし方として、小学生の平日については、14～16時には約5割の子どもが学校にあり、以後16～18時には約6割、18時以降には9割以上が保護者や祖父母などと、家庭で過ごしています。土曜日や日曜日・祝日、長期休暇には「保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした」が5割以上を占めています。

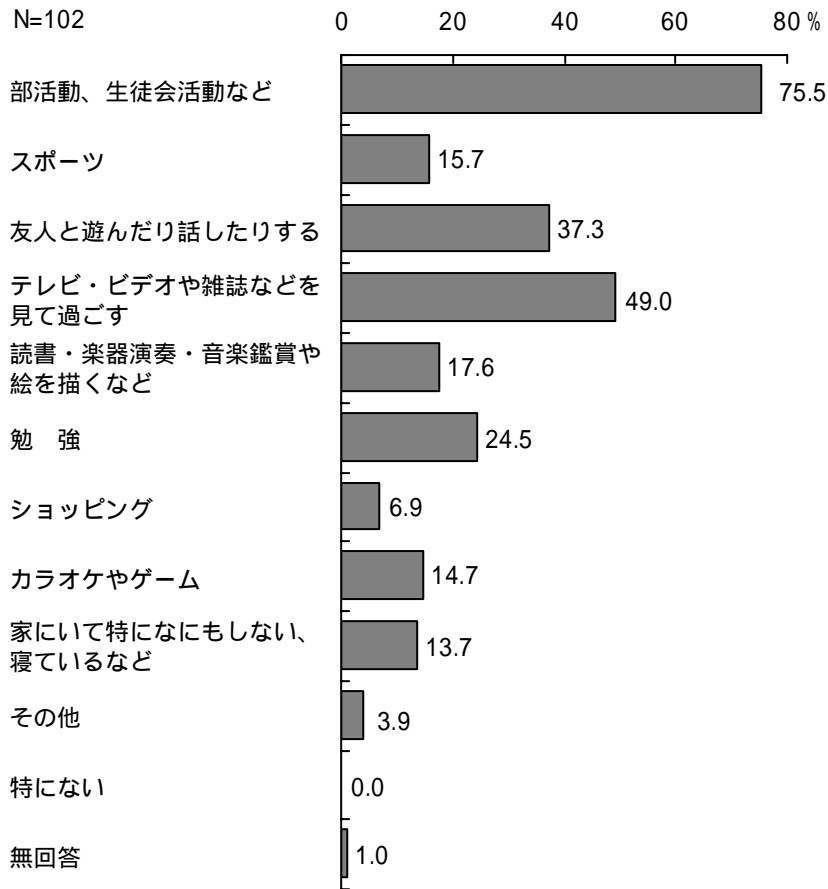
また、中高生の平日の放課後または勤務時間終了時間後の過ごし方については、「部活動、生徒会活動など」が75.5%と最も多く、「テレビ・ビデオや雑誌などを見て過ごす」、「友人と遊んだり話したりする」などがあげられます。

子どもの居場所【小学生】

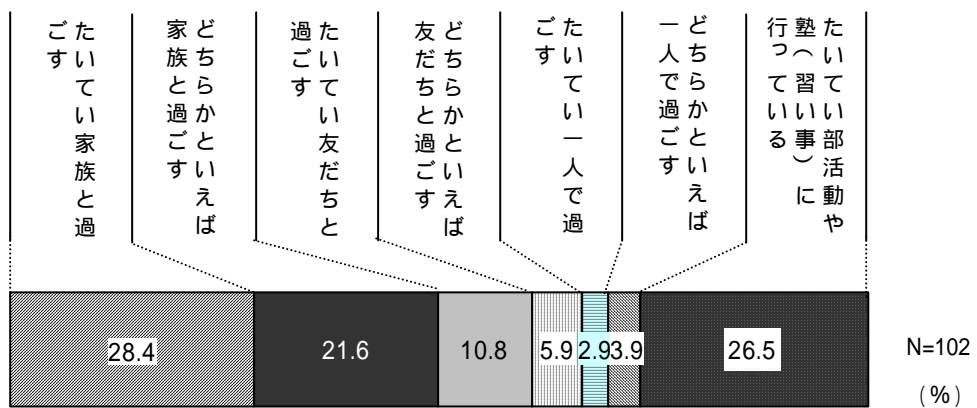
N=464		学校にいた	児童館で過ごした	保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした	ファミリー・サポート・センターの人と過ごした	家で兄弟姉妹や友達など子どもだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家にいた	公園などで友達と遊んでいた	公共の施設にいた	クラブ活動や地域活動をしていった	学習塾や習いごとに行っていた	その他	無回答
平日	14～16時	49.1	5.4	19.0	0.0	1.9	1.5	4.7	5.4	0.6	0.4	7.5	1.3	3.0
	16～18時	0.6	0.9	61.0	0.0	6.9	3.7	1.9	3.0	0.0	1.3	16.2	1.5	3.0
	18～20時	0.0	0.4	91.6	0.2	1.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.4	1.1	0.0	4.5
	20時以降	0.0	0.4	93.3	0.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	4.7
土曜日	9～12時	0.2	1.5	65.7	0.2	3.9	1.5	2.2	4.5	1.7	7.1	8.4	0.6	2.4
	12～14時	0.0	1.5	69.2	0.2	3.9	0.6	3.0	3.9	1.9	5.6	5.2	0.9	4.1
	14～16時	0.0	1.3	56.0	0.4	5.2	0.6	7.5	8.4	0.6	6.9	7.5	1.1	4.3
	16～18時	0.0	0.2	78.4	0.4	3.9	0.6	0.4	1.5	0.2	1.9	7.5	0.9	3.9
	18～20時	0.0	0.2	90.7	0.2	1.1	0.6	0.0	0.0	0.4	0.9	1.7	0.0	4.1
	20時以降	0.0	0.2	93.5	0.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.4	4.1
日曜日・祝日	9～12時	0.0	0.2	77.2	0.2	3.4	0.2	1.9	4.3	1.5	6.3	1.1	0.4	3.2
	12～14時	0.0	0.2	80.8	0.4	2.8	0.4	1.5	3.0	0.9	4.7	0.2	0.9	4.1
	14～16時	0.0	0.2	73.7	0.4	3.7	0.4	4.5	8.0	1.1	3.4	0.2	0.6	3.7
	16～18時	0.0	0.2	89.7	0.4	2.2	0.4	0.4	0.9	0.0	1.3	0.4	0.2	3.9
	18～20時	0.0	0.2	94.6	0.2	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7
	20時以降	0.0	0.2	94.6	0.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	3.7
長期休暇	9～12時	2.4	5.0	54.3	0.4	8.2	3.7	4.1	10.8	2.4	1.3	3.2	1.7	2.6
	12～14時	0.4	4.7	65.9	0.4	7.5	1.7	3.2	7.5	1.1	1.3	0.2	2.2	3.7
	14～16時	0.2	4.1	54.3	0.4	6.9	1.3	7.3	13.1	0.9	1.5	3.2	2.4	4.3
	16～18時	0.2	0.4	78.7	0.4	5.2	1.1	1.1	2.8	0.0	0.9	3.0	1.7	4.5
	18～20時	0.0	0.2	92.2	0.2	1.3	0.6	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	0.2	4.3
	20時以降	0.0	0.2	93.1	0.0	1.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	4.1

資料：平成16年ニーズ調査より

自由時間の過ごし方【中高生】



土曜日や日曜日・祝日に一緒にいる人物【中高生】

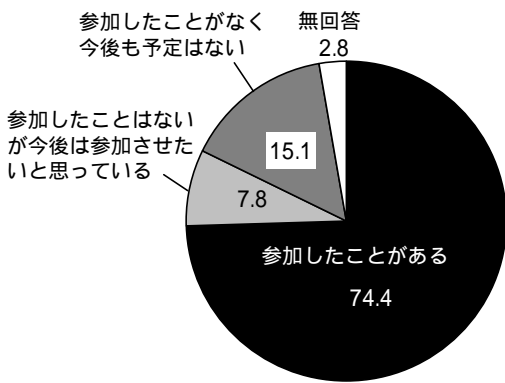


資料：平成 16 年ニーズ調査より

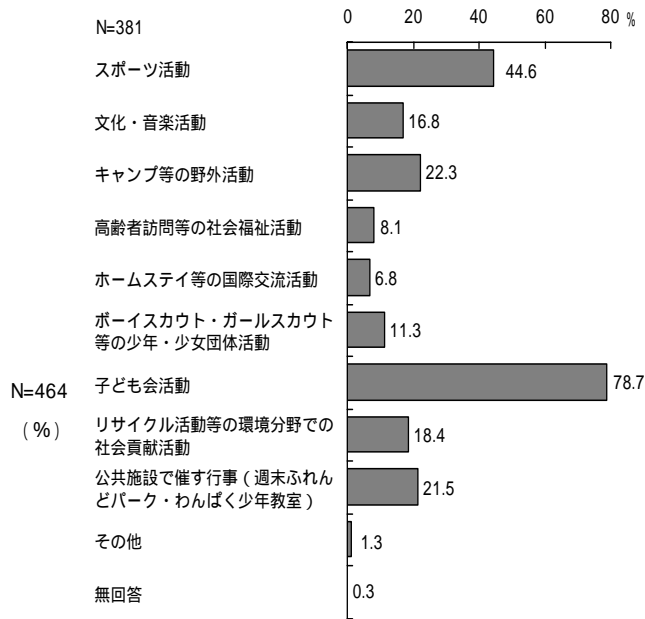
(3) 地域活動への参加

地域活動への参加の有無や参加した(させたい)地域活動については、小学生、中高生のいずれも約7割が参加したことがある、また今後も何らかの活動に参加していきたいという、地域とのつながりを持ちたいという意識が感じられます。子どもの遊び場については、「雨の日に遊べる場所がない」との回答が最も多く、小学生がよく利用する公共施設については、公園や図書館などがよく利用されている一方で、「いずれも利用しない」との回答も2割となっています。

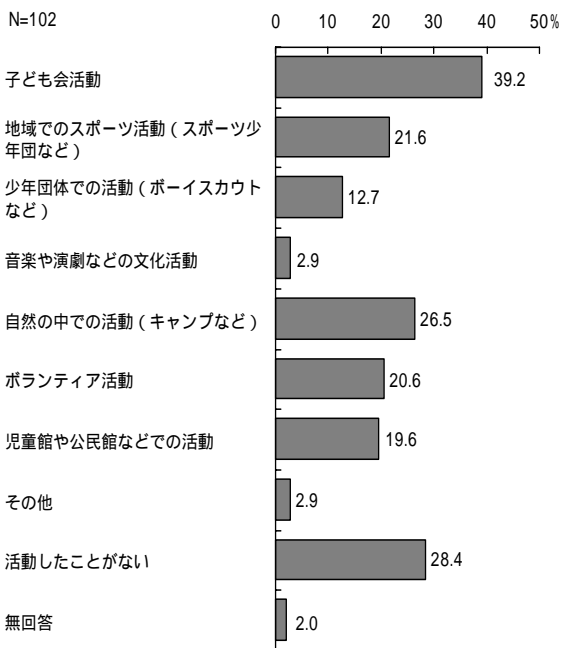
地域活動への参加の有無【小学生】



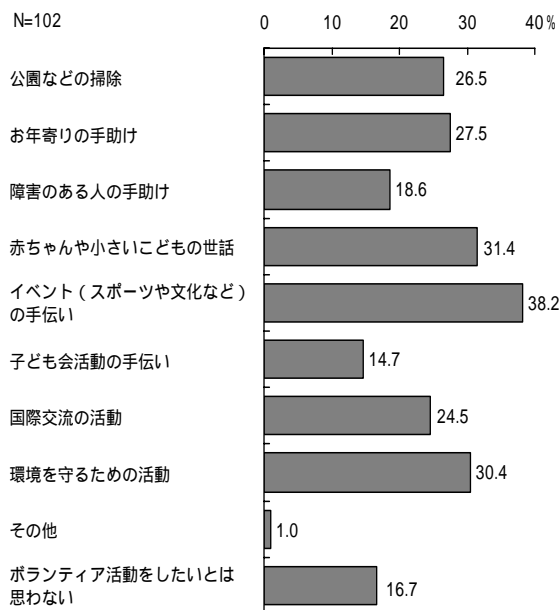
参加した(させたい)地域活動【小学生】



参加したことがある課外活動【中学生・高校生】

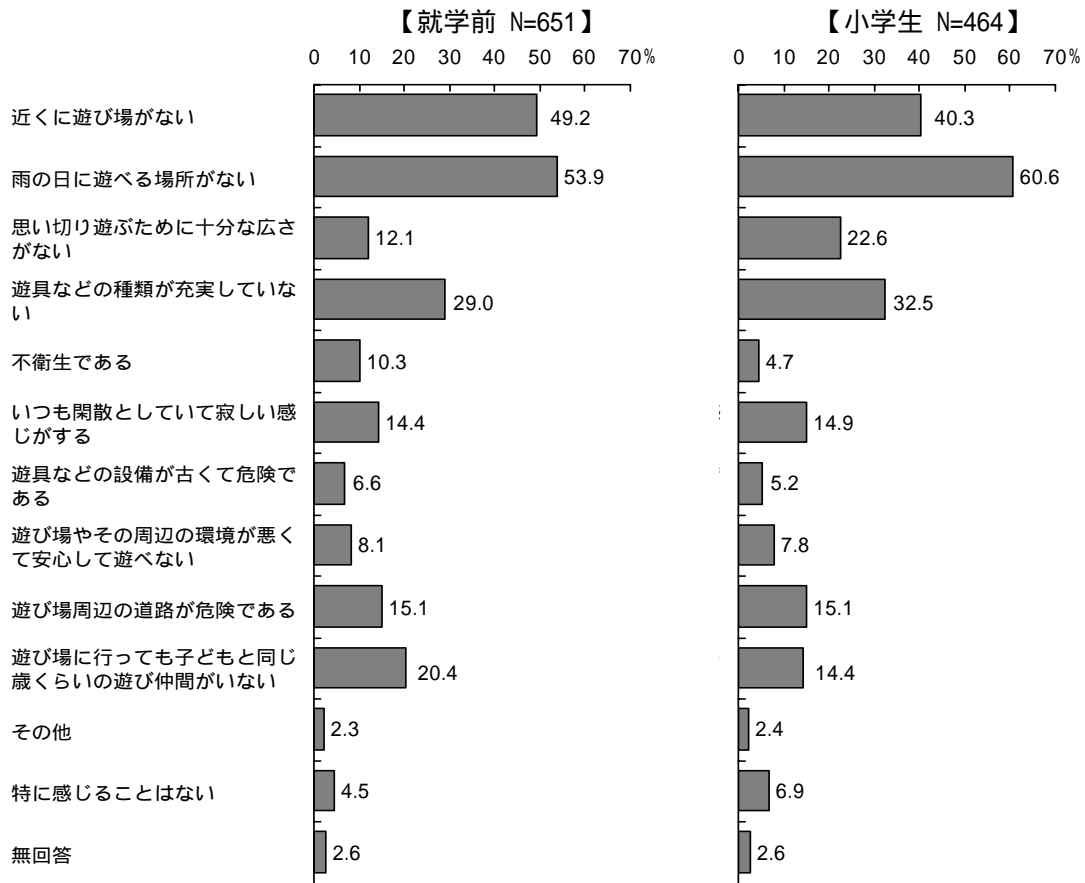


行ってみたいボランティア活動【中学生・高校生】

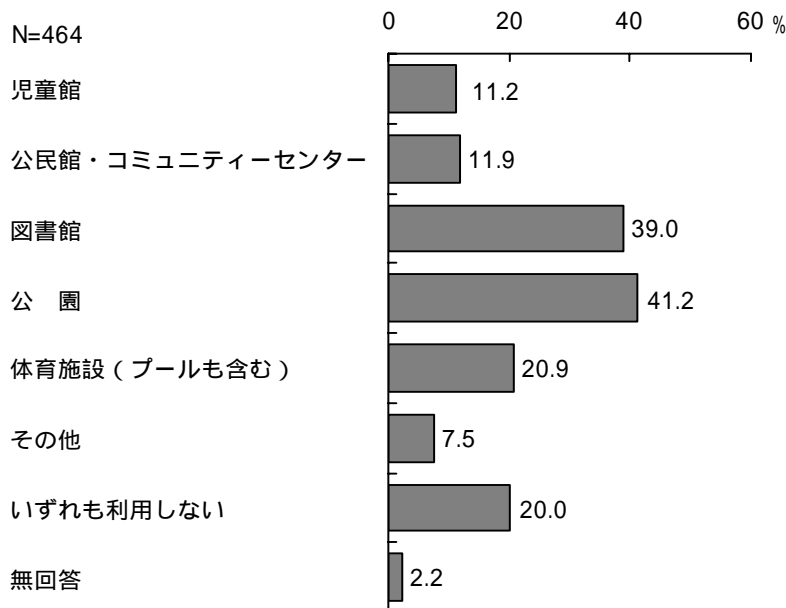


資料：平成16年ニーズ調査より

子どもの遊び場の問題点



子どもがよく利用する公共施設【小学生】



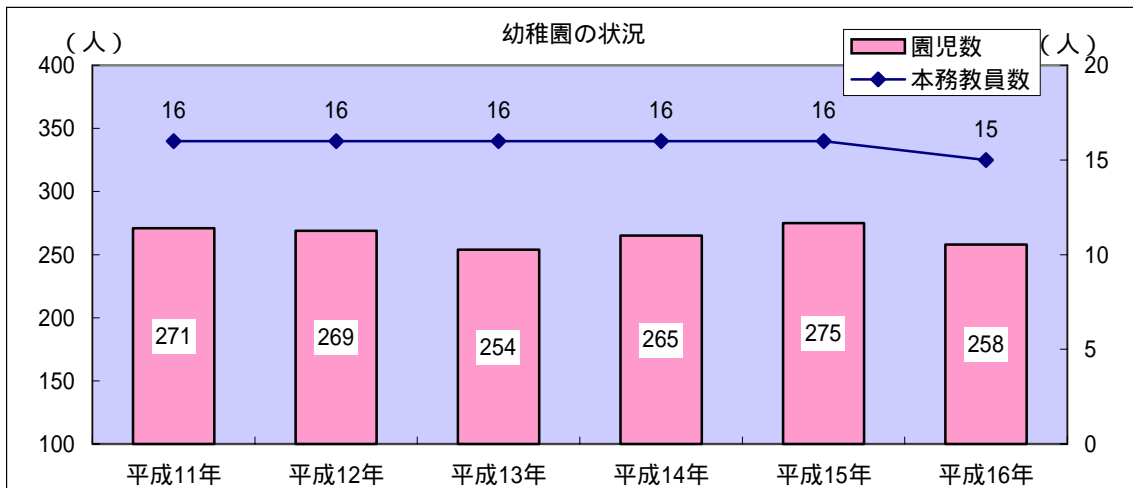
資料：平成 16 年ニーズ調査より

5. 教育環境の現状

(1) 幼稚園の概況

現在、白石市には2施設の市立幼稚園と1施設の私立幼稚園の計3施設があります。

本務教員数も園児数もほぼ横ばいの推移状況となっています。

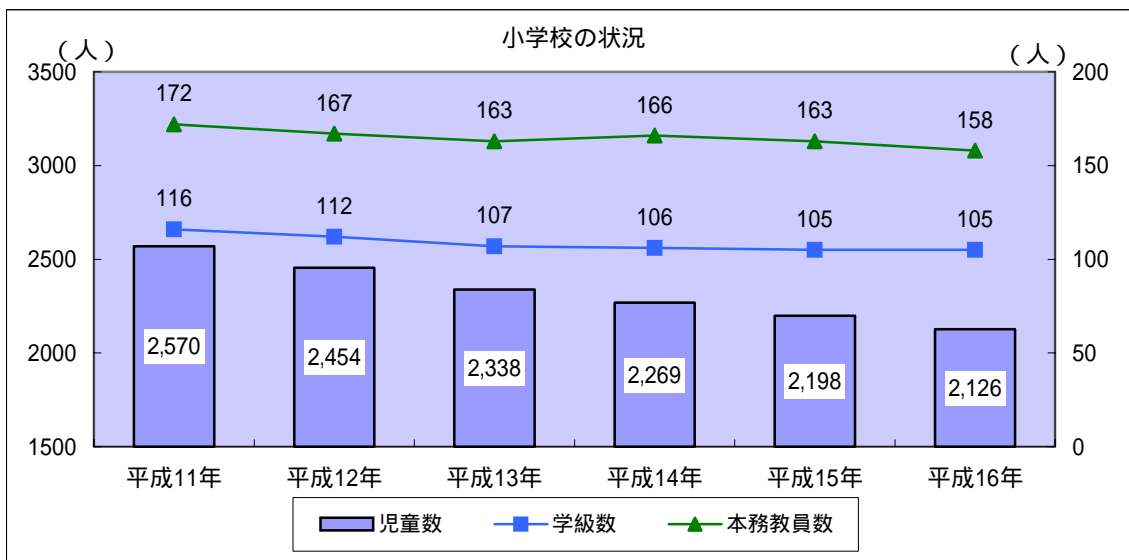


資料：学校基本調査

(2) 小学校の概況

現在、白石市には16校の小学校があります。

本務教員数、学級数、児童数について見てみると、いずれも減少傾向にあります。

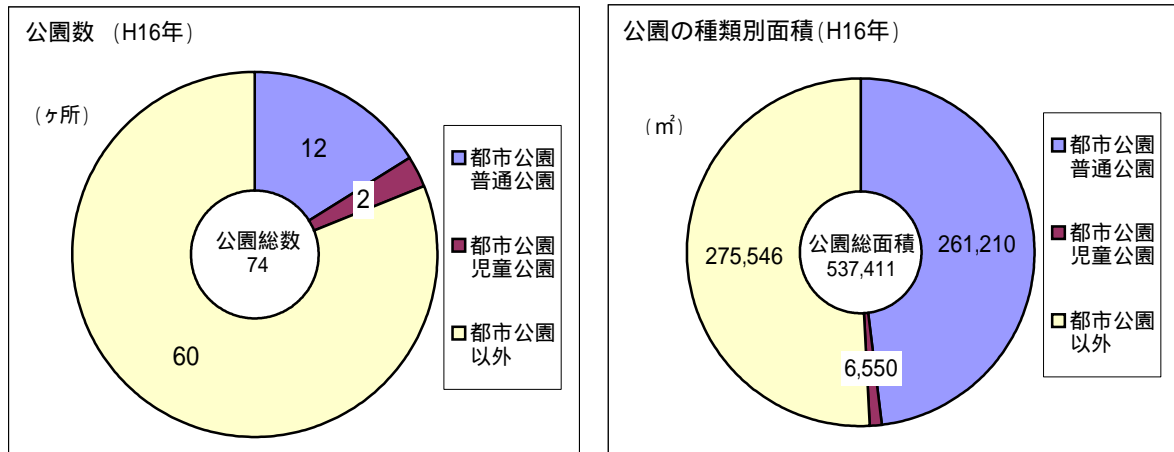


資料：学校基本調査

6. 子どもと地域社会の関わり

(1) 公園の数と面積

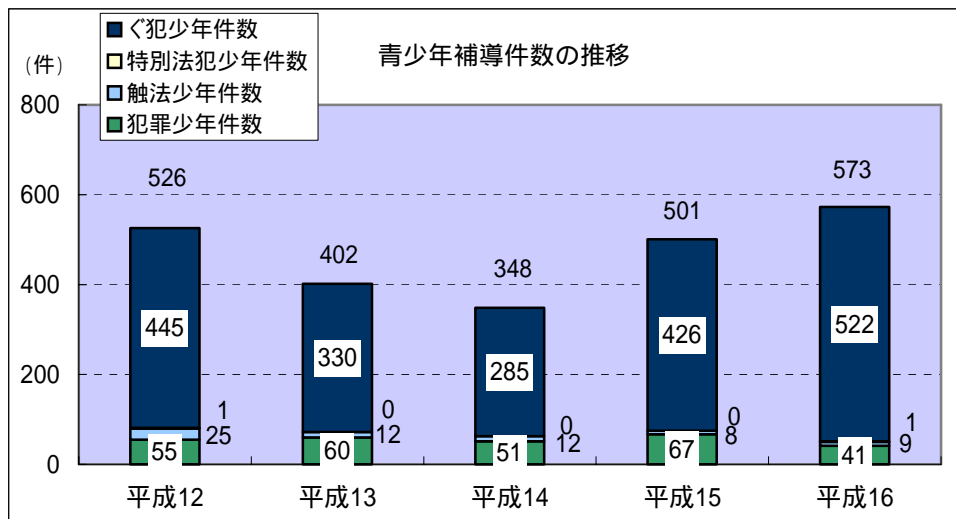
白石市内の公園の総数は74箇所となっており、その内普通公園は12箇所、児童公園は2箇所となっています。



資料：都市計画課

(2) 青少年補導の状況

青少年補導の状況については増加の傾向にあり、中でも「ぐ犯少年件数」は平成14年度と比べて約2倍の件数となっています。

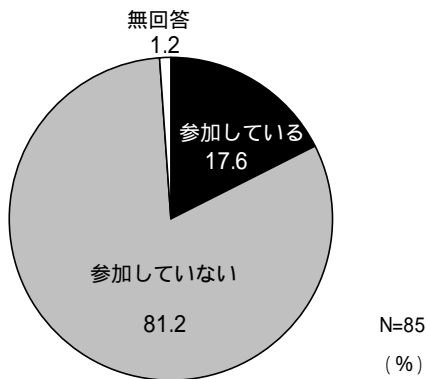


資料：白石警察署、白石警察署管内（七ヶ宿町、蔵王町を含む）

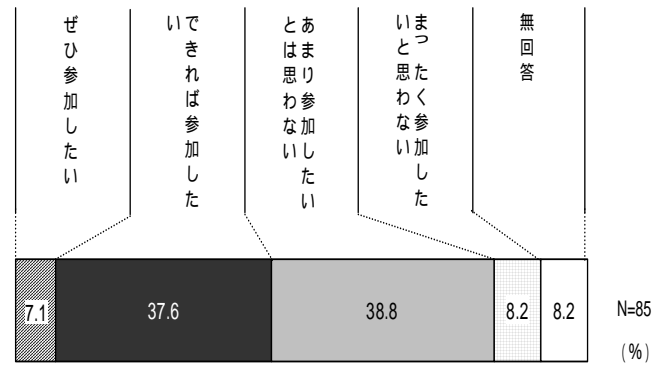
(3) 地域社会と子育て世帯の関わり

子育て支援活動への参加の有無と希望について、8割以上が現在参加していませんが、今後『参加してみたい』と思っている人が4割以上となっており、何らかの形で地域での子育て支援活動に携わっていききたいという、市民の意欲がうかがえます。また、子どものいる家庭に支援としてできることについても「子どもが犯罪や事故に遭わないよう、見守る」や「危険な遊びやいじめを見つけたら注意する」など、あまり負担のかからない形での支援であれば協力の姿勢が感じられます。

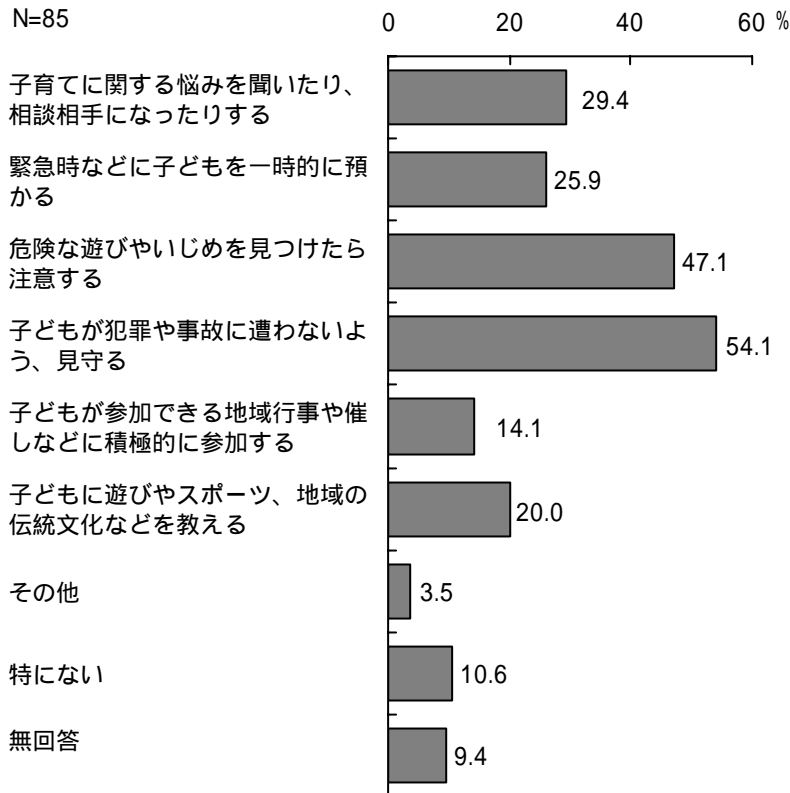
子育て支援活動への参加の有無【一般】



子育て支援活動への参加の希望【一般】



子どものいる家庭に支援としてできること【一般】

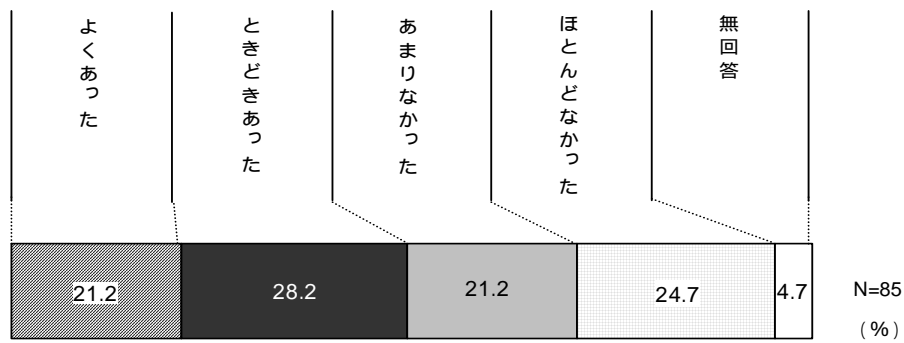


資料：平成 16 年ニーズ調査より

(4) 世代間交流

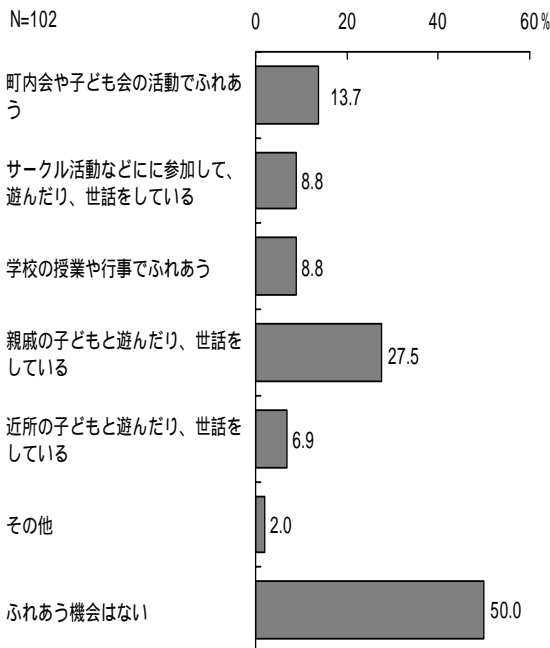
地域の子どもたちとのふれあいについても、「道で会ったとき声をかけたり、あいさつしている」、「悪いことをしているのに気づいたとき、注意している」などの、地域の子どもとの関わりの必要性を感じている一方で「地域の子どもたちとかかわりはない」との回答も 23.5% となっています。実際、一般の人や中高生の、乳児などの子どもとの関わりについて見ると、4~5割程度がふれあう機会がないと回答しており、また近隣の人との親しさについては「あいさつするぐらいの人がいる」が中高生で7割以上、一般でも 36.5% となっているなど、地域の人たちとの連携の必要性を感じている一方で、その連携が薄らいでいるとも感じているようです。

自分の子ども以外の乳児との関わり【一般】



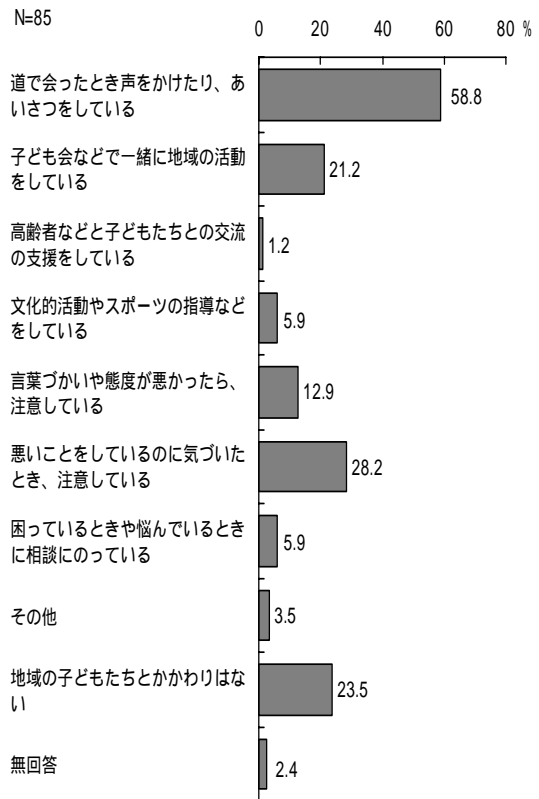
乳幼児とのふれあいの場所や状況

【中学生・高校生】



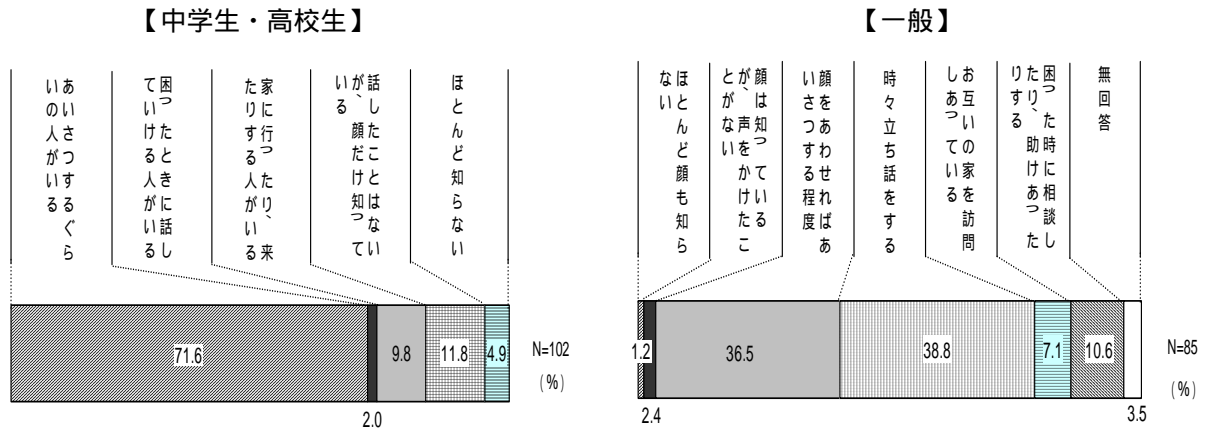
地域の子どもたちとのふれあい

【一般】



資料：平成 16 年ニーズ調査より

近隣の人との親しさ



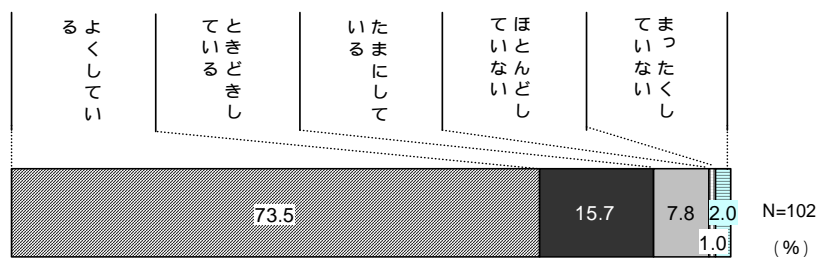
資料：平成 16 年ニーズ調査より

(5) 中学生・高校生の意識

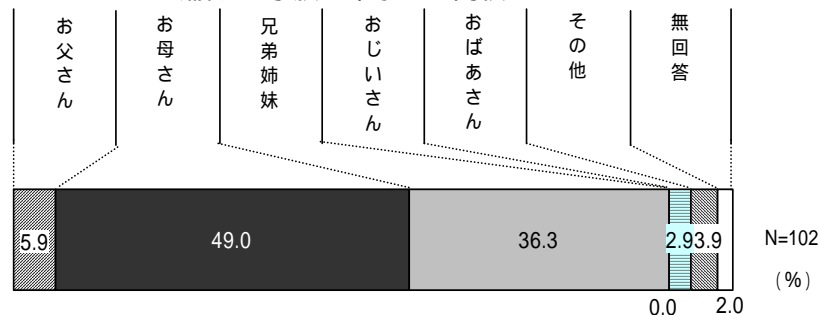
家庭生活について

中学生・高校生がどのような環境で過ごし、どのような意識を持っているかは、これからの社会を担う世代として重要と考えられます。そのような点から、家族や学校での関わり、郷土への愛着などについてのアンケートの回答を中心に取り上げてみます。家族との会話の頻度については、「よくしている」(73.5%)と「ときどきしている」(15.7%)を合わせた家族と会話を『している』は約9割となっています。また、その相手は「お母さん」(49.0%)や「兄弟姉妹」(36.3%)が多く、「お父さん」とは1割未満と低くなっています。家庭での生活は、「楽しい」(39.2%)、「まあ楽しい」(38.2%)を合わせると、8割近くの人が『楽しい』と答えています。学校生活では「楽しい」が46.1%と最も多く、「まあ楽しい」(32.4%)と合わせると、8割近くが『楽しい』と答えています。

家族と会話をする頻度【中学生・高校生】

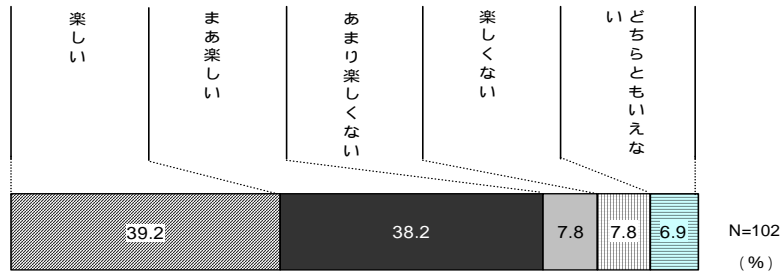


主に会話する家族【中学生・高校生】

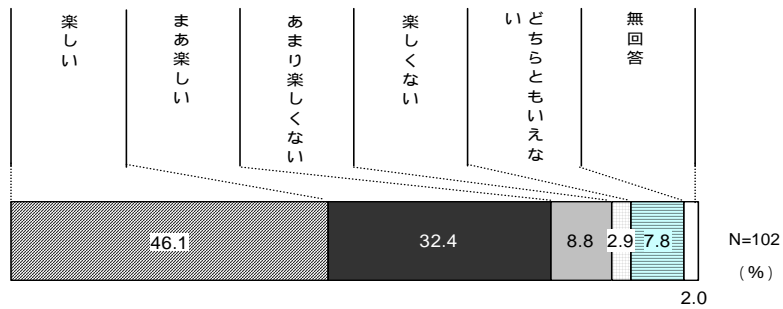


資料：平成 16 年ニーズ調査より

家庭生活の楽しさ【中学生・高校生】



学校生活の楽しさ【中学生・高校生】

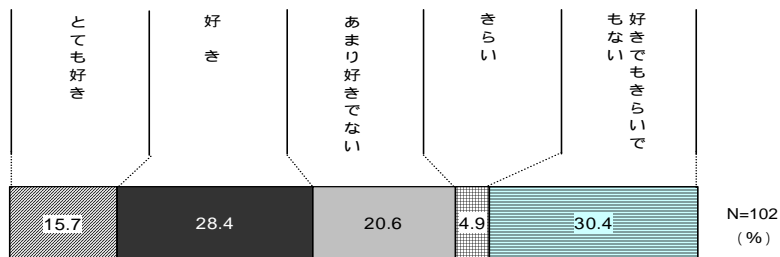


資料：平成 16 年ニーズ調査より

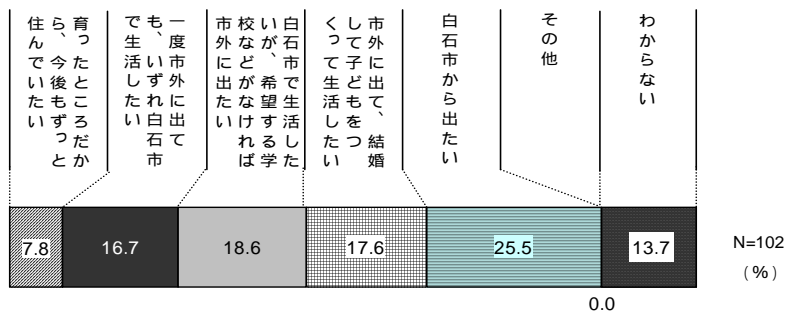
白石市への愛着

白石市について、「とても好き」(15.7%)、「好き」(28.4%)を合わせると4割以上が『好き』と答えています。また、「好きでもきらいでもない」も30.4%と多くなっています。白石市に今後も住みたいかどうかは、「白石市から出たい」が25.5%と多いものの、「育ったところだから、今後もずっと住んでいたい」(7.8%)、「一度市外に出ても、いずれ白石市で生活したい」(16.7%)、「白石市で生活したいが、希望する学校などがなければ市外に出たい」(18.6%)など白石市に居住したいとの意向がある回答が4割となっています。

白石市をどう思うか【中学生・高校生】



今後の居留意向【中学生・高校生】

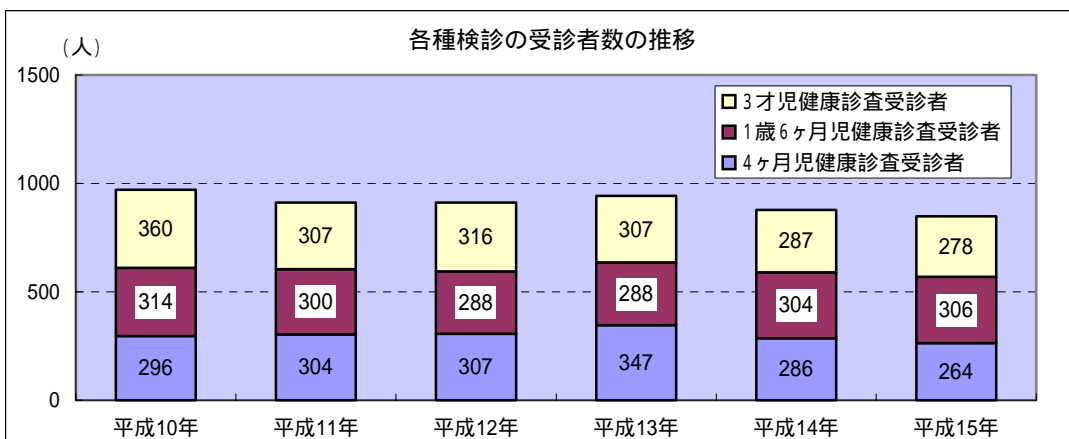
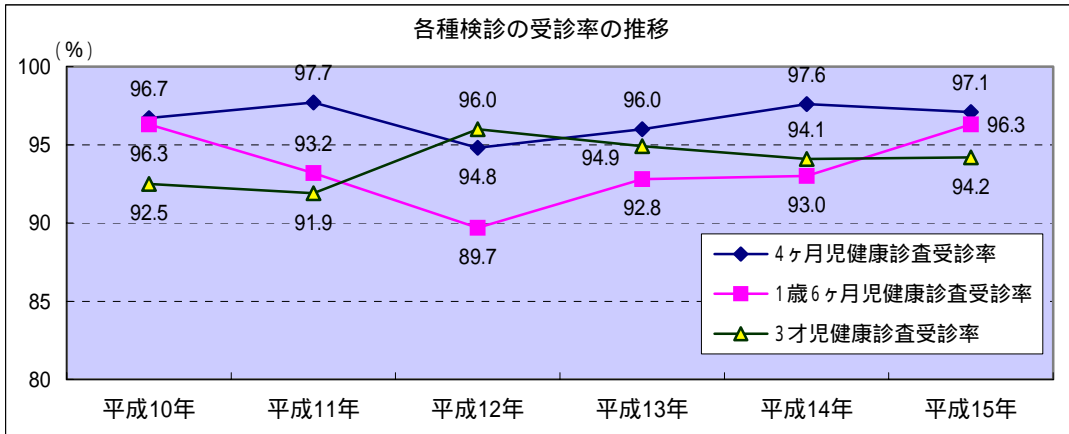


資料：平成 16 年ニーズ調査より

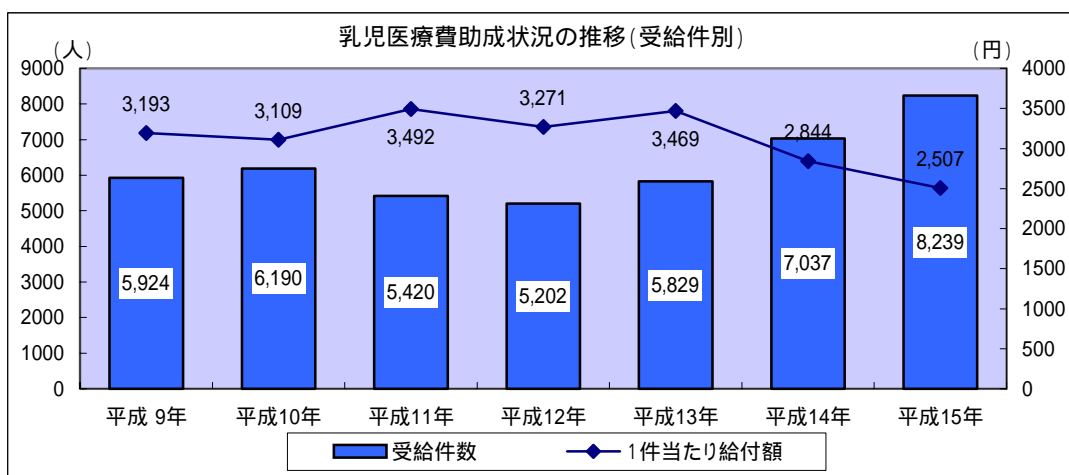
7. 小児医療の現状

各種健診の受診率は、90%前後で推移しており、中でも4ヶ月児健康診査の受診率は高くなっています。また、各種健診の受診者数の推移を見てみると、平成13年で一旦増加するものの、それ以降は再び減少に転じています。

乳幼児医療費助成状況の推移を見てみると、年間助成件数は増加し、助成額は低下しています。



資料：健康推進課



資料：福祉事務所